

Offshore 6 1986

社団法人 日本外洋帆走協会発行 No.135/300円

昭和61年6月15日発行（毎月1回15日発行）昭和52年7月21日第三種郵便物認可

“Prince & Princess of Wales Cup”



チャールス殿下，ダイアナ妃より下賜された
The Prince & Princess of Wals Cup
提供：朝日新聞社

英国皇太子・皇太子妃盃は 〈BORN FREE III〉に



▲数々のカップを手にした〈ボーンフリーⅢ〉チーム

▼左からヒッチ英国公使、大儀見 NORC 副会長、石原 NORC 会長



英国公使ブライアン・ヒッチ氏のご臨席を賜わり、第8回沖縄～東京レースの表彰式が、東京・永田町のキャピトル東急で6月6日にぎやかに行われた。チャールズ皇太子、ダイアナ妃の来日を記念して下賜された The Prince & Princess of Wales Cup は総合優勝の〈ボーンフリーⅢ〉が手にした。

英国のファストネットレースに比較される沖縄レースは、今回は参加9隻、完走3隻であったが、今後、もっと多くの艇が参加し、文字通り国際レースとして発展する事が大いに期待される。

(撮影：本誌)

日本船舶振興会補助事業

第8回 沖縄～東京レース

英国皇太子・皇太子妃杯ヨットレース'86

レース委員長 渡辺 修治

1) 沖縄レースの意義

NORCの外洋ヨットが、外洋ヨットのスタンダードを満たしていることを自他共に確認する通過儀礼としてのレースは、昭和26年のシルバーカップ、大島レース(100哩)にはじまり、昭和42年の八丈島レース(300哩)で本格的になり、昭和47年には距離ときびしさでファストネットレースやパミュダレース等の国際的スタンダードを上廻るこの沖縄レース(830哩)が開始された。

下の表で見るように、NORCのメンバーでわれと思わぬ人達が沖縄レースに挑戦するようになって、一時は参加艇数27隻を数える程になった。ところが、何故か今年の参加艇数は激減してわずか9隻に落込んでしまった。

同じ太平洋亜熱帯の島の外洋ヨットレースでも、遙か遠いハワイのケンウッドカップには今年も NORC



スタート翌日〈あさま〉(手前)は〈織姫〉(右)とミートした
提供:〈あさま〉

から多くの大型艇が参加しようとしているのにハワイ諸島に負けない素晴らしい海と、奥ゆかしい文化を持ち、ホスピタリティーに満ちた人々が待っている沖縄

沖縄～東京レース実績

回	年 度 昭和年	参加艇 隻	DNF 隻	所 要 時 間					備 考 (レース委員長)
				優 勝 艇		ファーストホーム艇		ラスト艇	
				艇 名	h m S	艇 名	h m S	h m S	
1	47	12	1	チタ III (VAN 40)	108-32-17	チタ III	108-32-17	147-13-37	2位艇との 差約 20h (大儀見)
2	49	17	2	SUN BIRD II (S & S 38)	123-28-29	SUNBIRD II	123-28-29	166-15-13	(清水)
3	51	13	5	MAGICIAN II (YAM 36)	136-09-16	SUNBIRD V (SdS 45)	126-49-46	181-35-28	落水事故 沖縄より1隻参加 (清水)
4	53	27	7	SINDBAD II (NAK 33)	153-57-12	月光 V (FRE 41)	146-24-25	238-05-30	沖縄より 参加艇2隻 (武市)
5	55	21	1	SINDBAD II (NAK 33)	138-38-16	SUNBIRD V (S & S 45)	129-49-15	164-27-44	(周東)
6	57	17	0	SUMMER BOY (TAK 36)	118-30-32	EPICUREAN (VAN 40)	117-49-04	145-11-12	(大儀見)
7	59	13	7	NACHI VIII (DOU 42)	168-50-18	NACHI VIII	168-50-18	201-21-25	(篠 原)
8	61	9	6	BORN FREE III (NAK 34)	181-13-46	オリヒメ (FRE 40)	171-36-36	186-07-10	(渡 辺)



健闘むなしく RET. の〈あさま〉の面々

提供：〈あさま〉

レースが何故こんなに人気を失って下火になってしまったのだろうか。

今年の沖縄レースの委員長を引きうけた私は、関東支部長の大儀見さんや、帆走委員長の宮坂さんと相談して、将来の沖縄レースの人気挽回策を計った。

ヨットの原点にかえて反省すると、結局、ケンウッドカップシリーズに負けない面白い魅力のあるレースをやることと、ビジターのヨットに対する地元の受入れ機能を良好にすることがまず考えられる。

その為には、地元の NORC 沖縄支部が、自主的に面白いシリーズレースを企画、運営する必要がある。そして、最後に沖縄レースをスタートさせる。沖縄レースそのものは沖縄レース委員会が運営するがフィニッシュは関東支部が受持つ。つまり、両支部がホストヨットクラブの役目をするわけである。

この考え方には、沖縄の城間支部長はじめ、実行委員の皆さんが賛成した。これまでの沖縄レースでは、東京の NORC 本部から乗りこんで来て運営されたので、沖縄支部はお手伝いの役目を果せばよいと考えていたが、今後は NORC の帆走委員会と協力して自主的運営を考えて行きましょうというわけである。

今年は、実行、レース委員会としても、参加艇が少なくなった機会を利用して、メンバーを最小限にしぼり、実際の働きは、沖縄、関東両支部のオーナーを中心とする会員のボランティア活動に頼ることにした。

2) 那覇にて

4月25日の全日空で、私と坂西、松浦君3人は那覇にとび、沖縄支部の平良、東江、桃原氏と合流して自治会館の9階にレース本部を設けた。ここからは、那覇港の指定ヨット泊地が眼下によく見える。

平良、東江氏の案内で沖縄県観光文化局、観光開発公社、那覇市、海上保安庁、気象台、沖縄タイムスと挨拶に廻る。

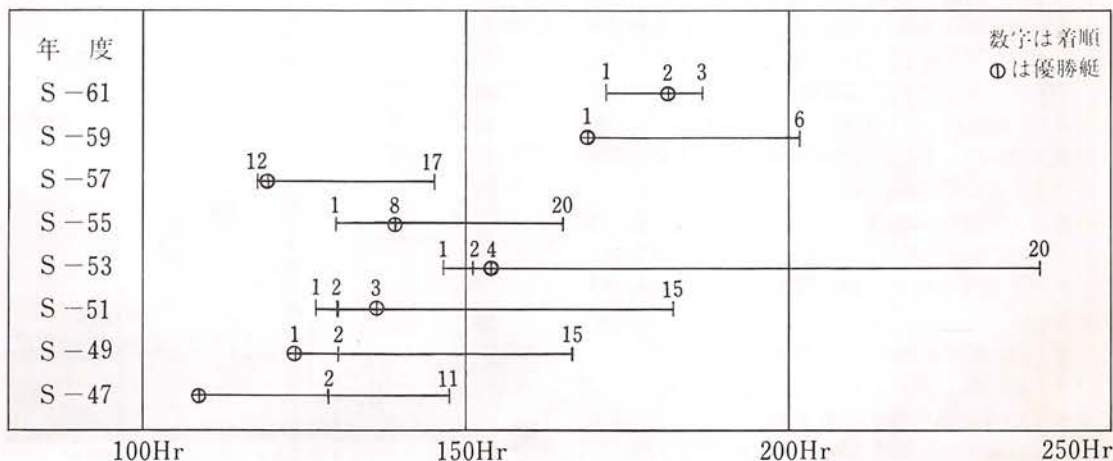
県も市も近頃は沖縄観光の有力な目玉としてヨットに力を入れておられ、来年は沖縄国体の為に那覇市の北12キロの宜野湾市の海岸に大型ヨットハーバーが完成するので、将来の沖縄レースのビジター艇の受入れは問題がなくなるという。ケンウッドカップレースのことを話したところ、沖縄県とハワイ州は姉妹県でもあるし、今年のケンウッドカップレースは県としては参考の為にぜひ見ておきたいといわれた。

4月27日、0900、恒例の「座間味レース」が田中村長の号砲でスタートした。内地からの参加艇は3隻だった。私は城間支部長と本部艇で伴走した。慶良間の島々と海は、ききしに勝る美しさである。しかし40年前、沖縄本島を攻撃する為に、この青い海に集結したアメリカ海軍の船艇の黒い影を見たこの人々の心中を推察すると、感慨無量である。レース後の座間味村公会堂でのパーティーでは、久米島産の泡盛古酒に酔った。

4月28日1600から自治会館で艇長会議が行われた。

三崎ヨット局のボランティアオペレーターの都合がつきそうなので、ロールコールは1200と1900の位置を

沖縄～東京レース所要時間





ファーストホームした〈織姫〉 提供：オーシャンライフ

2回報告することとし、2メガSSBのみの艇3隻は〈ふじⅢ〉が中継することになった。(スタート直前〈ふじⅢ〉の無線機が故障した為、中継船は〈織姫〉に変更された。)

沖縄気象台の予報官がレースの天気予測を説明して下さったが、5月4日頃には二つの目玉の低気圧がレース海面を通過するかもしれないということだった。

1830から自治会館の会場で前夜祭が始まった。来賓の挨拶が終って各艇の紹介に入ると、ミス沖縄が各艇のスキッパーに花の首飾りをかけてくれる。ヤンヤの拍手であるが、艇数が少ないので何となく淋しい。宮古島の〈ティダ〉の伊志嶺オーナーは、わざわざ泡盛古酒の大壺持参で前夜祭に参加され、クルーに竹の杓で注いで廻らせていた。

3) レース経過

本部船は、以前森繁さんが持っておられた40呎トローラーの〈メイキス〉である。那覇港のセンターブイの西200mに本部船を投錨してスタートラインを設定した。4月29日1200スタート。風はNNW6~7ノット。スタート後、岸寄りに北上するグループと黒潮を求めて西に向かうグループに分れた。

5月1日、大陸と太平洋の移動性高気圧の間に、黄海から対島にかけて弱い前線がある。1900の各艇の状況は〈ボンフリーⅢ〉だけが東の太平洋上に抜け出し、SWの風を受けて三崎目指して1日150浬で快走しており、西に行った〈天竜〉、〈ユーカリ〉、〈ナチⅧ〉は黒潮の流れに入ったらしく船脚が伸びてトカラ群島を抜けようとしている。奄美群島沿いに競っていた大型艇群は大分遅れ〈織姫〉と〈浅間〉がやっと島を離れたが、〈風見鶏〉と〈メープル〉は奄美と喜界島間の水道を走っている。〈ふじⅢ〉は無線機故障で入電がない。

5月2日、前線が南に下り、梅雨型になった。〈ボンフリーⅢ〉はSW8ノットの風で三崎に向けて快調に走っている。他の艇群は種子島の東に出て黒潮に乗ったようである。風はNW4~8ノット。1200〈風見鶏〉がリタイヤーして種子島に向かった。

5月3日、梅雨型の前線は停滞している。レースフリーは四国南方海上に達した。スピードは1日当り100~120浬。1200〈メープル〉がリタイヤーして油壺へ向かう。

5月4日、前線はさらに南に下って、風向きはNEになった。フリーは潮岬の南方で、東側の〈ボンフリーⅢ〉はNE30ノットと報告しているのに、南側の〈浅間〉はNE3ノットしか吹いていない。1930〈浅間〉はリタイヤーして串本へ向かった。

5月5日、前線は弱まり、気圧の等高線の間がのびた。健闘していた小型艇〈ユーカリ〉が0430紀伊水道でリタイヤー、串本に向かう。続いて0600〈ナチⅧ〉もリタイヤーして串本へ。〈天竜〉は室戸崎の南方でデismast、漂流中の所を明方航行中のタンカーが発見して海上保安庁に通報してくれた。〈天竜〉は自力で機走して屋垣室戸に入港した。

1200〈ボンフリーⅢ〉と〈織姫〉は遠州灘に入った。〈ふじⅢ〉からは依然として入電がない。

帆走指示書では5月5日1800以降はフィニッシュラインの本部船を撤収して本部はレース委員長の私の家に移し、フィニッシュする艇は自分で時間を確認の上電話で申告することになっているが、本部船〈衣笠〉のオーナーの鈴木康之君の好意でもう一晩待つことにする。

5月6日、天気がくずれ始め、雨になった。昨日遠州灘では〈ボンフリーⅢ〉よりやや遅れていた〈織姫〉は相模湾に入るとスピードをあげ、1200には州崎西方に達した。その頃〈ボンフリーⅢ〉は爪木崎で悪い潮流に遭遇して神津島近くまで流されて遅れをとっていた。夕刻、待ちに待った〈織姫〉がフィニッシュしたので、フィニッシュのウォッチを解散して、レース本部を私の家に移した。

5月7日、未明〈ボンフリーⅢ〉艇長から、無事フィニッシュの電話が入った。〈ふじⅢ〉からはスタート以降、全く入電がない。0700横須賀保安部に〈ふじⅢ〉以外の艇の現状を報告する。保安部は沖縄レースのことをよく理解しておられ「いつでもそちらの要請で動きます。」と言って下さった。

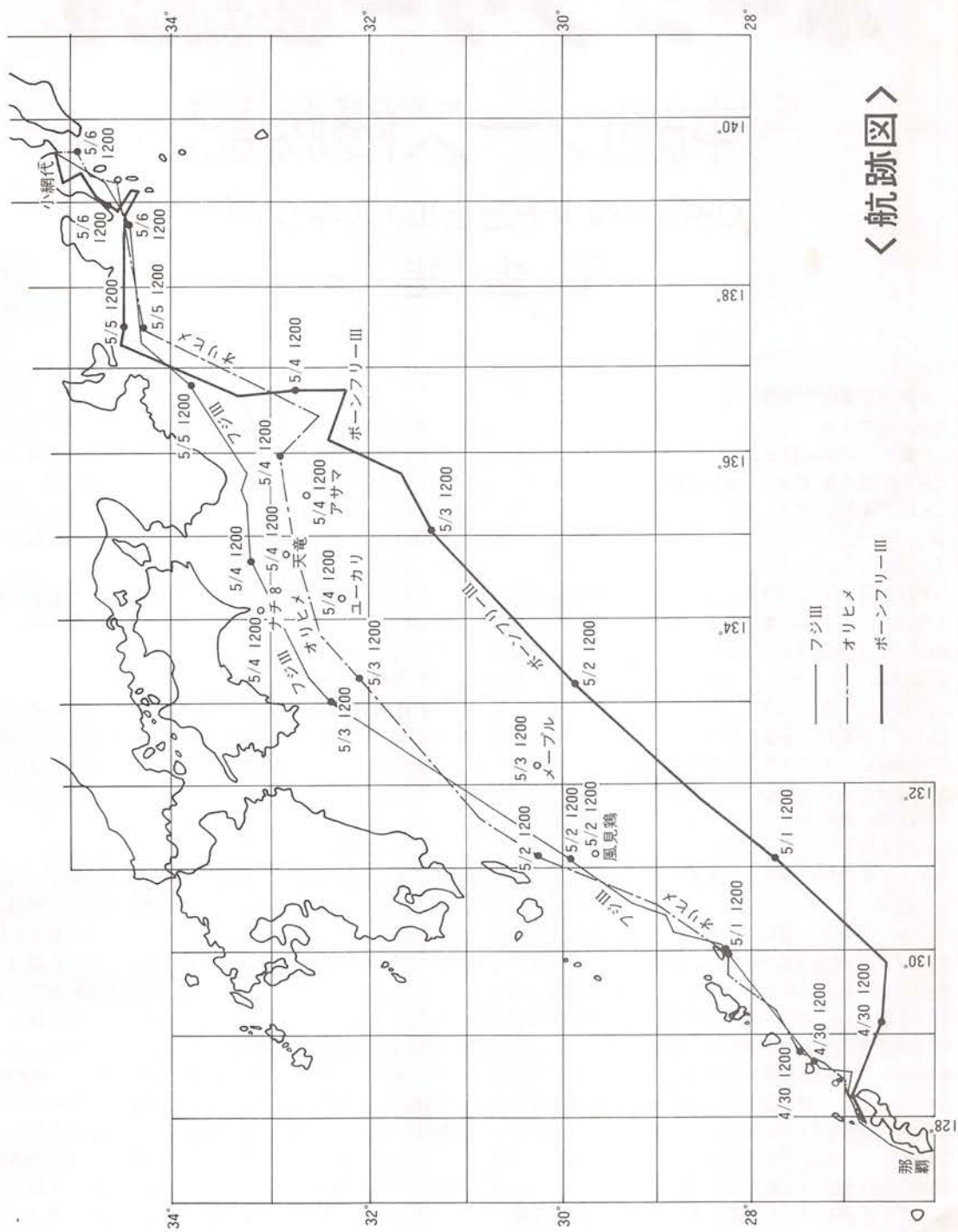
0730頃〈ふじⅢ〉の宮坂艇長から、無事フィニッシュの電話が入った。

本レースをサポートして下さった沖縄支部、関東支部の皆さん、長期間有難うございました。



〈織姫〉のフィニッシュを見守るマークボートの〈がめら〉 提供：オーシャンライフ

<航跡図>



ボーンフリー夢航海

— 沖縄レース優勝記 —

〈BORN FREEⅢ〉スキッパー

平生進一

〈名言集〉

- ・笑って交代5分前
- ・ヨーコさん
- ・曇ってればトロピカル
- ・トロピカル Born Free 夢航海
- ・爪木沖0.5マイル エッ!

〈フィニッシュ〉

5月7日 午前1時フィニッシュ予定時間を過ぎたころ案の定、落ちてきた北東の風の中、諸磯灯台を目前にして〈Born Free〉は行ったり来たりをくりかえすばかりでちっとも Finish line に近づいてくれない。イライラする気持ちと最終アプローチに待ちうけている「大謀」の存在に誰もがおしだまっている。前回の沖縄レースでは外人クルーでかためた〈ティダ〉が10日余りをかけて830マイルを走り Finish 10^M手前のいけすに乗り上げて涙のリタイヤという悲劇がみんなの頭をかすめているのだろう。

キャビンの中でロランと電卓片手に海図にとりくんでいた Mr. ロランマン・イッチャンが「このまま0.3マイル、タックして0.6マイル、もう一度タックすればそこが最終アプローチ」などといやに精密なナビゲーションを伝えてくる。デッキ上の緊張感とうらはらなイッチャンの自信満々の言葉にみんなの神経的な笑いが、アハハと夜の闇に吸い込まれていく。赤い点滅をくり返す大謀の浮標の中を、細い糸に引かれるようにゆっくりと艇は闇の中を進んで行く。「のぼりきれない!」無言の闇の中、ヘルムスモーさんのうわずった声がコックピットから聞える。しばらく裏風を入れながら進むセールに再び風が入った。

たるんだ糸がゆっくり引かれるように〈Born Free〉は小網代湾の中に入っていく。誰もいない Finish line を通過した瞬間、誰もいないと思っていたシーボニアの堤防から「おめでとー!」「ヤッター、ボーンフリー!」という大歓声。強力なストロボライトが火花のようだ。5月7日、1時46分26秒。僕等は遂に

“Prince & Princess of Wales Cup” を手中にしたのだ。

コックピットにかけもどりモーさんとセーリンググロブ越しに固い握手。腕をぐいと引いて抱きあい、オイルスキンの背中をたたきあっていると、熱いものがこみ上げてくる。シーボニアのハーバーオフィスの前の特等パースに横づけし、拍手・握手・抱擁・花束・レイ・ビール・乾杯とつづく。

岡ゆれする足を踏みしめても踏みしめても夜空に魂が飛んでいってしまうような僕等なのだった……。

〈大予言〉

4月28日 11:00 PM 幸村オーナーいわく「イケルような気がする。こんなにトラブルもなく落着いて過すレース前夜なんてないもん。賭けのコース引かなくてもイケンじゃネエカーナ」

〈レース準備〉

廻航に出れば50%、スタートすれば70%レースは終わったと言われる沖縄レース。準備を抜きにしては語れないだろう。昨年のミキモトカップに〈つばくろ〉のサポートヘルムスマンとして参加した時から話は始まった。今の〈ボーンフリーⅢ〉〈NAKAYOSHI 34〉を建造した4年前から毎回くり返されていた沖縄レース参加の検討が急に具体化されたのだ。〈つばくろ〉グループは〈ボーンフリーⅠ世〉(エクメドメール26F)を買って結成されたグループで、幸村オーナーの強力なリーダーシップにより、沖縄レース2回、小笠原レース、PANAM CLIPER カップと矢継ぎ早に国内外の大レース出場をこなしてきた、沼津フリート随一の「ガッツレースグループ」である。10年来のライバルであり仲間でもある〈つばくろ〉グループの全面的な協力申し入れがあり、〈ボーンフリー〉の沖縄レース出場が決った。

昨年12月より安全備品の搭載、無線機の取付・開局、艀装のチェック、船底のペイント等、気の遠くなるよ

うな作業をチェックリストにして洗い出し、担当者を決めてこなしていった。全メンバー東京在住の我々にとって月2〜3回の沼津行はなかなかゆるくないもので、4月17日夜、船を廻航に送り出した時は正直いってホッとしたものだ。

昨年12月以来、過去の沖縄レース情報を集めてきたスクラップブックも2冊になっていたが、コースの検討を真剣に始められたのも船を送り出したこの頃からであった。

鳥羽レースより長距離のレースに参加した事のない〈ボーンフリー〉チームにとって沖縄レースのコース戦略等、当初は雲をつかむような話であったが、コース戦略の重要性については、今までの島廻りレースや鳥羽レースでイヤというほど思い知らされていたので、経験のないぶん真剣に過去のレースを調査・分析し戦略を決めていった。

〈コース選択〉

沖縄レースには3つのウィニングコースがあると言われる。沖縄本島から一気に北上し、黒潮をつかまえる黒潮重視の北上コース。フィニッシュへの最短コースをひたすら走るという距離重視のラムライン中間コース。レース前半で経度をかせぎ、風のフレに合せて北上していく気象重視の南コース。

僕の作戦はこうだった。僕等は中年おじさんサラリーマンセラーであるから、今回のチャレンジが最初で最後のものになるかもしれない。だから最初から賭けはしたくなかった。一週間近くの長丁場を最初の賭けに失敗して、敗けを承知の上で800マイルも走るのにはマッピラだ。もう一つ、僕等の〈Born Free〉は小さい。だから修正時間での勝負になるわけで、となれば先行艇がフィニッシュしてから僕等の艇が何時間後にフィニッシュできるか、それが問題となるわけだ。つまりこの間、レース海面には我々だけが帆走中なのであるから、フリーの強風にでもなれば僕等にも勝ち目はあるし、風でしまえばはっきり負け、いずれにしろ先行艇がフィニッシュする頃まで地道にくっついて走り、勝負は伊豆半島沖からというのが基本的な戦略だった。

この戦略に照らしてみると、北上コースはいかにもあぶなげに思えた。一般的に、北上コースはラムラインコースに較べて約30マイル余計に走る事になると言われ、10数時間黒潮に乗ればこの差は取り戻せるとされているが、このコースの成否の鍵は黒潮をとらえるまでの“所要時間”ではないだろうか。他艇が東へ経度を稼がないうちに黒潮をとらえ、黒潮のゲインを利用して、他艇を四国沖までのレグで引きはなす、というのがこのコースの真髄であろう。

…と、するならば、まず、北上するに有利な風向、風速をして水線長の長いスピードボートを持している事が必要ではないか。あるいはもう一つの考え方とし

て、レースが微風に終始した場合であり、この時は黒潮のゲインの割合が相当高くなると思われ、この場合も北上コースに有利さが感じられる。

いずれにしても外洋レースは、“所要時間”を争うものであるから今回の沖縄レースのように長丁場レースの場合、プロットチャート位置まで何時間かかるのかといった視点を忘れてはいけない。北上コースをこのように評価すると、僕等の艇のコース戦略としては採用しがたく、北上コースは当初より全く考えなかった。

次に、ラムラインコースと南コースの評価については、高名な“高城理論”があり僕も大いに影響を受けたと言えよう。南コースはラムラインコースに較べて約15マイル余計に走るコースと言われているが、どこまで南下するかは、他艇との比較の上での話で、北上コースのように黒潮をとらえるまでは是が非でもコースをふくらまさないといけないという性質のものではない。従って今回のように出場艇数の少ないレースの場合、他艇より南に常に自艇のポジションをおいておく事は比較的容易なはずで、ここに『基本的にはラムラインコース、ただし他艇より常に南側に自艇をおいておく』という〈Born Free〉のコース戦略ができた。

〈レース〉

4月29日 10時 那覇港岸壁のもやいを一番に解く。今、思い返せば、二番手に岸壁を離れたのは〈オリビエ〉でくしくもレース順位と同じであり、これからのレースも「出艇は一番で」などと考えている。正午のスタート後、沖出し北上コースの〈テンリュウ〉〈ユーカリ〉を除いて、全艇、沖縄本島西岸をタックをくり返しながら上っていく。北の風5M、岸ベタコースを引いた〈アサマ〉が良い風をつかんでトップで残波岬をかわし伊江島水道につっこんでいく。〈ボーンフリー〉が伊江島水道にかかる頃、日もとっぷりと落ち、夜半には本島最北端の辺戸岬をクリアしてコース110°、いよいよ作戦通りの「経度かせぎ」の沖出しコースを走る。ポートクローズ6 knotで快走する。

4月30日 一日中ポートのクローズでヘディング120°、やや南下ぎみのコースではあるが「経度かせぎ」の戦略にのっとり快走する。夜8:00のロールコールで他艇の位置をプロットすると、〈テンリュウ〉〈ユーカリ〉の北上コース組が足をのばしているが、他のラムライン組のワントン・2トン勢はそれほど足をのばしていないので一安心というところである。しかしいつまでも120°のコースで南下を続けるわけにもいかずタックのタイミングを考えるが、本州上にある高気圧が東進しているので、風は右廻りに、すなわちポートの下振れ傾向がいずれ出る事を予想してヘディング150°になったらタックの指示を出して夜10:00オフワッチとなった。今回のワッチシステムは日中6・6

夜間4・4・4のシステムでスターボーワッチを〈ボーンフリー〉グループ4名、ポートワッチを〈つばくろ〉グループ4名で行ない、5月4日早朝からの強風の中もワッチシステムをくずすことなくフィニッシュする事ができた。

5月1日 02:00 ワッチにつくとスターボークローズ60°で走っている。2時間程前に150°までヘディングが下がりスターボーにタックしたとのことである。予想通りの展開に思わずニンマリ。夜があけて風はさらに右廻りに振れてきた。スピンアップのチャンスがうかがい、昼過ぎとうとうスピンアップ6~7 knotのアビームでヘディング60°, いい展開である。三陸沖の高気圧は35 km/hの遅い足で東進している。この風はまだまだ続きそうだ。夜8:00のロールコールでラムライン上のワントン・2トン勢に40マイル程の差をつけた事が解り一同顔を見合わせる。

5月2日 この日〈ボーンフリー〉艇上で早くも優勝宣言が出た。風は前日よりやや南に振れS-5 m程であろう。一日中クォーターリーのスピンランで5~6 knot, 天気は快晴, 気温も30°位に上っている。レース前半のキャッチフレーズ“トロピカルボーンフリー夢航海”を絵に書いたような走りである。あまりの暑さに水浴びするクルーが続出, 〈ボーンフリー〉の後部甲板は一時銭湯の様相を呈する。期待と不安のいりまじった昼1:00のロールコールが始まった。

〈ロールコール〉

「こちら三崎ヨット局、沖縄—東京レースに参加の各艇、感明ありましたら応答願います。」一昼の1:00と夜8:00にくり返されるこのロールコールを毎日僕等がどんなに期待と不安のいりまじった気持ちで迎えたが、今想いだしても胸の高まりを覚える程だ。

「こちらヨットボーンフリースリー、三崎ヨット感明ありますか?」

「こちら三崎ヨット、良く入ってます。そちらの位置、風向、風速をお知らせ下さい。」

「ヨットボーンフリー5月2日12:00の位置を申し上げます。29°53'ノース、133°15'イース、風はSW 10 knot」

「了解しました。ヨットアサマ、ヨットアサマ感明ありましたら応答願います。」

次々に行なわれる位置報告をログブックにはしり書きする。受信状態を安定させる為に次々とダイヤルを操作する小林オペレーターと全神経を耳に集中しながらも目で会話する。

「ヨットオリヒメ30°04'ノース、131°38'イース」

……“ヤッター”こぶしを握りしめ嬉しさをおしこころしても声が出た。5月2日13:00のロールコールで2位〈オリヒメ〉に経度で78マイル差をつけた事が分った時、小林オペレーターと顔をくしゃくしゃにして握手をしながらも足がガクガクして全身がふるえ

た事を良く憶えている。

5月3日 我々に“トロピカルボーンフリー夢航海”をもたらした高気圧も日本のはるか東海上に去り、この日四国沖の前線上に弱い低気圧が発生した。北上黒潮コースをねらった〈テンリュウ〉、〈ユーカリ〉、〈ナチ〉と同様にラムライン組のワントン・2トン勢もコースをやや北めにとり黒潮をキャッチするコースを狙っているようだ。〈ボーンフリー〉を除いて全艇足摺岬と都井岬の南方海上に位置を占めた。レース艇団のはるか南東海上に位置する〈ボーンフリー〉艇上ではしだいに雲量を増し、落ちてくる南の風が昼すぎ頃から南西へまわってくる。ダウンウインドタッキングをくり返ししながらコース50°を保とうとするが、風が弱く波の残っている海面でつぶれかかるスピンをだましながらの帆走となり艇速も4 knot 前後に落ちて神経のいらだつレグとなる。昼1:00のロールコールで、四国沖のオリヒメとアサマの足がのびている。前夜7:00からのレグで100~110マイルをかせいでいる。〈ボーンフリー〉は85マイルとスタート以来始めて差をつけられ始めた。風向風速情報に耳をすませていると〈オリヒメ〉はN, 〈アサマ〉はNNWと報告してくる。四国沖の低気圧の北側至近距離に位置していると考えられ今後低気圧の発達と共に快走を始めるだろうと予測する。いよいよ中盤戦の山場が訪れた。スタート以来当りに当たっていた南廻りコースをこのまま維持するか、あるいは、今までの好位置の貯金を使って全艇の前へ出るべく北上するか、ナビゲーターの僕の胃が痛みだした。昼のロールコール後、1時間程チャートテーブルを前にして天気図の解析。過去のレース展開、そして学連のディンギレースを始めとする自分自身のレース展開と結果を何度も反芻する。油汗の出るような時間が過ぎ結論を出した。

「ここで一回レースのケリをつけよう。いつまでも今の好位置に甘えて南コースをとりつづけ、北東風の連吹などという状況にでもなれば、今までの貯金は一挙に零に近くなる。」「大勝ちを期待するより貯金を使って全艇の鼻をひとまずおさえよう。」コックピットに出て北上コースを告げる。予想通り、賛否両論噴出し、同時に風のほうも急速に落ちはじめ雨も時折りまじるなど、前線の接近を感じさせコックピットは急に不安げな空気に包まれる。

夜7:00とうとう前線と遭遇 NNW の風となり、ポートのクローズでヘディング30°北上コースをとりはじめる。

5月4日 03:30北東風が急に吹き出した。30分程の間にNo1フルメインからストーム、トライスルにセールダウン。波はまだそれ程でもないが風速は20 m程もあろうか、横なぐりの雨と暗夜の強風にコックピットもキャビンも一気に修羅場と化す。ポートのクローズでヘディング120°, トライスルがマストヘッド1/2トン用のものなのでリーヘルムが強く上れない。だま

しだましヘルムを取るが上り角度は60°位であろうか。8:00頃、このまま低気圧の尻を追いかけて沖出しするより北上して風流の弱まる事を期待しようと考えスターボーにタック、ヘディング0°で走り始める。9:00頃ストーム3ポンにかえ上り角度も取れるようになり6 knotで北上コースを快走します。昼1:00のロールコール、かたずをのんで耳をそばだてると案の定、〈オリヒメ〉、〈アサマ〉は緯度で同緯度、経度で約30マイル後方とかなり追いあげられている。夕刻より風もおさまってきて少しずつ東へ振れてくる。スターボーのクローズ6 knotでヘディング10°~20°と一発で大王崎をかわせるようになる。

5月5日 明け方大王崎をクリアー。9:00 伊良湖岬の東20マイルあたりでタック。ポートのクローズ、ヘディング100°, No2フルメインで走る。10:00ワッチの連中がデッキで騒いでいる。何事かと眠い目をこすりながらコックピットに出てみると、沖からマストヘッドリグの大型艇がスターボーで上ってくる。〈オリヒメ〉だ。700マイルを走ってトップ艇とミーティング。全クルーオールハンズでデッキ上で大喜び。〈オリヒメ〉にじっくりくっついて行こうと航跡上でタック、スターボーで岸へつかける。さすが2トン船足早く北東の風7~8 mの中1時間程で視界から消えて行く。

夕刻、御前崎の手前で風が落ちて、過去の鳥羽レースの悪い思い出が頭をよぎり、再び胃が痛みだす。夜8:00のロールコールを不安な面持ちで待つ。〈オリヒメ〉が経度で6マイル先行。我が〈ボーンフリー〉は緯度で4マイル北にいる。思った程離されていない。

〈ボーンフリー〉はいい風をつかんでNo1フルメイン、ポートクローズ6~7 knot、ヘディング90°で夜の駿河湾を渡って行く。夜半から風が再び強まりだし、No1フルメインからNo3をへてストーム3ポンまでセールダウン。石廊のはるか沖で東の風35 knotの中ポートで新島をめざす。

5月6日 前夜来の風は北東に腰を据えてきた。レースはにわかに秋の神子元レースの様相を呈してきて、冷たい北東風に吹かれながら石廊から爪木への上りにかかる。波と反流をさせて石廊崎の東へとつつき、横根・平根の内側をショートタックで上って行く。下田沖へさしかかる頃さしもの北東風も勢いをなくしてくる。メインのリーフを次々に解除していくが、既に優勝を意識しだして慎重になりすぎてか、アンダーパワー気味のセーリングとなり艇速がのびない。昼1:00ロールコール、〈オリヒメ〉は風早沖に達したと報告している。我々は爪木沖0.5マイル。段々と力をなくしてくる北東風にフィニッシュまでもってくれと胸の中で手を合せ伊豆半島東岸を上っていく。夜に入ってから大島の北へ出る。本船航路に入ってからひとしきり強い雨に見舞われ本船を避航するのに冷汗をかく。夜10:00頃、三崎ヨットと交信、7日1:00頃のフィニッ



優勝の〈ボーンフリーIII〉

提供:オーシャンライフ

シュを予告する。コミッティーからフィニッシュの本部船はタイムオーバーで引きあげるの、小網代提防延長線をフィニッシュラインとしてフィニッシュ時間は自己申告する旨伝えてくる。“7日半も走って勝利のフォグホーンを聞けないなんてヒデーヨー”とクルーからブーイング。コミッティーの事情を解るが、こんな事じゃ日本の長距離外洋レースのお先真暗というところ。やはり待ってて欲しかった。

5月7日 1:00 〈ボーンフリー〉は小網代フィニッシュへの最後のレグを滑って行く。夜に入ってから気温が下がり、寒さと99%の勝利の予感にいやに体が震えてくる……。

なるほど勝利とはいいいいものだ。家に帰れば女房小供も大喜び。会社に出ればお祝いの電話で仕事にならない。さすが全国紙に載るレースは違う。おまけに英国皇太子杯までいただけるという。翌週、ホームポートの沼津重須ヨットハーバーに帰ればハーバー仲間が我が事のように喜んでくれ祝勝会まで開いてくれる。半年にわたる中年おじさんセーラー達のチャレンジはみんなの胸に楽しい思い出と“僕達だってまだまだイケル”という自信をチョッパリ残してくれた。〈ボーンフリー〉 & 〈つばくろ〉グループヤッタネ、万才、ホントにうれしい。

〈レースメンバー〉

平生進一〈ボーンフリー〉 37歳、スキッパー、ナビゲーター、14名の〈ボーンフリー〉共同オーナーの“社長兼雑役夫”、今回はビデオ担当。

大多和正樹〈ボーンフリー〉 37歳、ヘルムスマン。ヘビースモーカーの肺ガン外科医、通称モーさん。文句も言わずオートヘルムのようにヘルムを取るのが特技。

深尾一郎〈ボーンフリー〉 39歳、海外勤務の折、エーゲ海でクルージング狂となり、通称“エーゲ海のイッチャン” ロランとたわむれ

るのが特技、またの名を
“Mr. ロランマン”

小川 寛〈ボーンフリー〉 27歳、〈ボーンフリー〉の
ほえるフォアデッキマン、
微風のセールチェンジでも
フォアデッキで怒鳴ってる。
レース中に婚約発表あり。

幸村至峻〈つばくろ〉 39歳、ポートワッチキャプテン、
レース前日“いけるような
気がする”と〈ボーンフリー〉
の優勝をただ一人予言して
みんなに変な目で見られた
大予言者。

小林正紀〈つばくろ〉 38歳、廻航からレースまで20

松尾雅一〈つばくろ〉 28歳、グアム焼の浅黒い肌
と白い歯がかわいい若い衆。
天気図書き免許皆伝。半人
前ナビゲーターの補佐役担
当。

上田容一郎〈つばくろ〉 27歳、細い体の細い目がい
つも笑っているフォアデッ
キマン。パウの身のこなし
は、腹の出た中年おじさん
コックピットマンのあこが
れの的。



“Prince & Princess of Wales Cup”の誕生

大儀見 薫

今回の第8回沖縄—東京レースに「英国皇太子・皇
太子妃盃」が、チャールズ、ダイアナの両殿下により
ご下賜されることが決定したのは、今度のレースのス
タート直前の4月24日のことだった。

レース・コミッティーは、渡辺修治委員長をはじめ、
担当の全員が既に現地入りし、レース参加艇も、殆ん
どが回航を済ませて那覇港で目前の本番へ向けて、最
後の整備に大わらわといった状況でのことだった。こ
の問題で最初から親身になってご心配頂いた英国大使
館のヒッチ公使から、電話で「やっとロンドンから
OKのTELEXが入りました。皇太子殿下が、直接
ご自身で決定されました。正式には、本日中に手紙で
通知します」との連絡が入ったのだが、早速、渡辺委
員長、その他の関係者に連絡をとり、前夜祭での扱い
等必要な準備と手配に急拠取り組むことになった次第
である。

折り返し、沖縄の渡辺さんからは、「地元の沖縄の
関係者が大変喜んでいる。今までは本土のレースのお
手伝いといった気分で取り組んできたけれども、この
ように国際的に認知されたレースであれば、全力をあ
げてそれにふさわしい立派な内容にするよう頑張らな
ければ」という大変嬉しい反応が返ってきた。

この“Prince & Princess of Wales Cup”のご下賜
について、石原会長名で駐日英国大使館にお願いの文
書を出したのが3月1日のことだった。それ以降、ヒッ
チ公使、ハットフル第一書記官等が間に立って、ロン

ドンの皇太子殿下のパーソナル・セクレタリーと何度
かの折衝を持って頂いての結果だったのだが、その間
「もう間に合わないのじゃないか」とか、「見通しは
あまり良くない、この種のカップは前例がないから」
とか、随分気を揉ませられただけに、この決定を聞いた
時はほんとに良かったな、というのが偽らざる実感
だった。

この件では、小生の40年来の友人で、アイルランド
の大学を卒業したという面白い経歴の持主である奥野
さんが英国公使のヒッチさんとも親しいということ
で、健康がすぐれず入院している身でありながら、何
回も電話等でフォローしてくれたことも特記して置か
なければならない。奥野さんは、数年前までは稲取港
をベースにハーショフの28呎ケッチを存分に楽しんで
いた根っからのヨット乗りであることもあって、今回
の皇太子・皇太子妃盃については大変親身になって心
配してくれた。彼の努力に対しても心から感謝してい
る。

沖縄—東京レースは、1969年末に小生が、武田陽信
さんの〈VAGO〉の一員としてシドニー・ホバート・
レースに参加した後、日本へ帰る途中で沖縄に立ち
寄って、「日本でもシドニー・ホバート、あるいは英
国の外洋ヨットレースの原点である、ファストネッ
ト・レースに比肩できるようなレースを、沖縄—東京
間でやれないものかどうか」ということで現地の沖縄
タイムスの当時の上地社長にご相談申し上げたことに

端を発している。

当時、朝日新聞社の西日本支社からシドニーに西牟田記者が派遣されて、シドニー・ホバート取材していたのだが、日本から参加したわれわれ一同としては、なんとか日本の海でも、このような素晴らしい本格的な外洋ヨットレースを育てたいという気持ちが強かった。海図を開いて見るまでもなく、沖縄—東京というのが一番先に思い浮ぶコースなのだが、当時、沖縄は未だ米軍の統治下にあり、NORCとしては全くなんの手掛りもなかった。西牟田さんに相談したら、「沖縄タイムスの上地さんに紹介しますよ」ということで、上地社長と会うことができ、上地社長からは「来年にでも是非やって下さい」と大変熱心に勧められ、また、泊地の候補地などもご自身で車を運転して案内して下さった。

こういった経緯もあって、1972年に第1回の沖縄—東京レースが発足するにあたっては、沖縄タイムスは勿論だが、朝日新聞社には全面的にバックアップしてもらい、今日に至っている。今回の“Prince & Princess of Wales Cup”の企画も本年2月末に、テレビ朝日の堀口事業局長と、朝日新聞社からテレビ朝日の顧問として移籍された坂崎さんから「至急会って相談したい」ということでお会いして、相談を受けたことから始まっている。坂崎さんは沖縄レースの発足当時、朝日新聞で企画の責任者として直接このレースの誕生に参画している人だし、堀口さんは、〈TABATHA〉のオーナーとしてNORCの会員でもあり、各種ヨット行事の企画を手掛けており、一面ではわれわれの「身内」でもある人である。

“Prince & Princess of Wales Cup”については、NORCの基本的考え方として、両殿下の来日記念をきっかけにすることは大変結構だが、一過性のお祭り騒ぎ的な位置付けではまずい……対象として最もふさわしいのは沖縄—東京レースであり、あらたに別の企画を立てることは現実面でも難しい、というものであった。時間的に非常に逼迫していたこともあって、石原会長、清水専務理事にも相談して以上のような考え方で対応した次第である。

TV朝日と英国大使館の関係者との予備的な折衝でも、「前例があまり無いので難しいが、十分に格調のある相応のレースであれば可能性があるかも知れない」とのことだったので、われわれの考え方と基本的に一致していたことは幸いだった。

NORCがRORC、いや、イギリスの海の伝統そのものに学んだことは大きい。発足当初からRORCのルールを採用したことは、組織と、レースの運営について、RORCの経験と実績に裏付けられたその基本的な考え方を取り入れたことを意味していた。しかし、NORCがRORCから取り入れたのはルールといった面ばかりでなく、その根本を流れるシーマンシップの基本としての、自らの責任を完徹する姿勢、安全に対

する自己完結型の厳しいスタンス等であり、RORCはNORCにとって文字通り海の先達としての良き「師」であったといつて良いだろう。

600漣余のファストネット・レースは、1922年第1回目だが、同レースは英国外洋ヨットは勿論のこと、世界の外洋ヨットの原点でもある。アメリカのバーミュダ・レースは、そのアメリカ版といえるし、オーストラリアのシドニー・ホバートは、RORCの会員で著名なイリングワース（〈Myth of Malham〉のオーナー）が、オーストラリアにもファストネット並みの本格外洋レースをやってはということ提唱して、1945年に発足したものである。

その意味で沖縄—東京レースは、小型外洋ヨットで、かつて帆船が雄飛した海洋を渡るレースをやるという、RORCのファストネット以来の伝統の延長線上にあるといえる。

英国皇太子殿下に対する今回のカップご下賜についてのお願ひも、こうしたRORCとNORCとの永年にわたる深い絆を背景に、それに最もふさわしいレースとしての沖縄レースに戴きたいということを主旨としたものだった。

今回、このような主旨のもとにチャールズ皇太子殿下から“Prince & Princess of Wales Cup”のご快諾を戴けたことは大変喜ばしいことだが、このことで、ことのほか喜びかつ大いに激励して戴いたのが朝日新聞社の伊藤専務である。伊藤さんは沖縄レースの発足当時、西日本支社にあって、西牟田さんの上司として、このレースの企画の段階から直接関心を持たれてバックアップしてもらった方であり、今回も、「素晴らしいことだ、朝日新聞としてもこれを機会に沖縄レースが文字通り一級の国際レースとして育つよう力を惜しまない。もう一度外洋ヨットの原点を踏まえて頑張ってもらいたい」と大変有難いお話をちょうだいする機会が持てたことは、今後のこのレースの発展のためにも大変有難いことだった。

まとまった休暇が取りにくいとか、今回のように前線が本州南岸に停滞した状況になると北東風の上りとなるため、所要時間も7日以上となる可能性があるとか、回航自体もひと仕事であることは勿論のこと、沖縄レースは、その海象・気象の面ばかりでなく参加の条件が厳しいレースではあるが、外洋レースが、カッコ付きの「外洋」レースになってしまわないためにも“Prince & Princess of Wales Cup”をひとつのきっかけとして、このレースを立派に育てて行きたいものである。ファストネットレースを今日の世界一流のレースに育てたのは、一寸やそつとのことではすじを曲げない、通すべき意地は通すといった、RORCの伝統、良い意味でのジョンブル魂の賜物ではないだろうか。

世界初の太平洋縦断ヨットレース

メルボルン／大阪
ダブルハンド・ヨットレース 1987

エントリー状況についてお知らせいたします。

5月現在エントリー総数は22隻です。これを国別に見てみると、日本が6隻、オーストラリアが5隻、アメリカが4隻、イギリスが3隻、ニュージーランドが2隻、ドイツが1隻、フランスが1隻の計7ヵ国22隻です。クラス別で見ると、Aクラスが15隻、Bクラスが6隻、未定1隻となっています。このほか国内で噂にのぼっている艇が10隻近くあり、最終締切日の今年12月31日には国内で15隻、海外で30隻の45隻ぐらいがエントリーをすますものと思われる。

過去においてこれほど多くの艇が一同に太平洋縦断コースを帆走したことはありませんし、考えただけでドキドキするではありませんか。関東支部の初島や大島というポピュラーなレースの参加艇とほぼ同数の艇が走るのですよ。

ではここで参加申込み各艇の紹介と一覧表を載せておきたいと思います。

〈参加者のプロフィール〉

◎丹羽由昌(48歳)、徳子(48歳)夫妻(愛知県)

丹羽由昌氏は、名古屋大学在学中からヨットを趣味とし、これまでトランスパックレース、チャイナシーレースなど、海外のヨットレースや沖縄～東京レースに参加しているヨットマンです。徳子夫人も由昌氏に負けず劣らず熱心なヨットウーマンで、ご主人と同様、名古屋大学時代からのキャリアを持っています。職業はヨット製造業、参加艇は未定。

◎藤田弘治(38歳)、栗山幸久(52歳)(東京都)

スキッパーの藤田氏は、居酒屋“神田南蛮亭”など五つの飲食店を経営するヨットマンです。ヨットには13年前に買った21フィートのクルーザーから乗り始めました。どちらかというとクルージング派ですが、今回はこのレースのために、ヤマハに新艇R-34の建造を依頼しています。進水は今年4月の予定で、沖縄か小笠原へのシェイクダウンクルーズののち、暮れにメルボルンへ船積みで送る予定です。

クルーの栗山氏は、店舗設計者で、藤田氏の飲食店をいくつか設計した縁で知り合ったヨット仲間です。参加艇はヤマハR-34〈オイドン〉10.5m。

◎三宅 新(38歳)、山村 昭(39歳)(岡山県)

参加艇〈カナーン〉は、1975年に造られたものです。が、オーナーの三宅氏の手に移る前は〈サンバードVI〉という名で活躍した名艇です。三宅氏は13～14年前からヨットを始め、モス級から21 JOG とシングルハンドで楽しんできたセーラーです。今回は、学生時代からスナイプ級などでレース慣れしている山村氏がスキッパーとして参加します。2人は15年来の友人で、山村氏も30フィートのクルーザーを持っていますが、規定の10mに満たず、三宅氏と組んでの参加だそうです。メルボルンまでの回航は2人で自力回航、11月下旬出発の予定です。職業はサービス業、参加艇は〈カナーン〉11.115mのスループ。

◎岡本卓也(48歳)(大阪市)

ヤマハジュニアヨットスクールの講師及びプロジェクトリーダーを5年間務める岡本氏は、これまでに1975年沖縄海洋博覧会記念太平洋横断シングルハンドレース、1983年第1回東京～グアムレースに出場、1980年には父子で大阪からサンフランシスコの太平洋横断を行っています。クルーはヤマハジュニアヨットスクール卒業生の予定です。参加艇は〈YR 38〉11.99m マストヘッドスループ。

◎斉藤茂夫(43歳)、多田雄幸(55歳)(東京都)

ヨット歴25年の斉藤氏は、これまでに〈オケラ1～5〉を含む20艇のヨットと飛行機3機を自ら設計、製作してきました。この間、東京～ロサンゼルス、東京～アラスカを含む1万マイル以上のクルージング、鳥羽レースや八丈レースに出場しています。

クルーの多田氏も20年のヨット歴の中で、1975年沖縄海洋博覧会記念太平洋横断シングルハンドヨットレース4位、1983年BOC世界一周シングルハンドヨットレースでは〈オケラ5〉でクラスⅡ優勝などの記録を持っています。

職業は、斉藤氏ヨット設計・建造業、多田氏タクシードライバー、参加艇は〈コーデンオケラ7〉16m マストヘッドスループ。

◎アレクサンダー S. ドッド(38歳)、

サラ J. ドッド(38歳)夫妻(英国)

ご主人のドッド氏は子供の頃からヨットに親しみ、マンチェスターの大学時代はもちろんのこと、社会人になってもヨットを最上の趣味とし、1976年に大西洋

を渡って以来、1983年にもイギリス〜デンマークを帆船走しています。夫人もご主人とともに15年間、主にイギリス海峡をセーリングしてきました。

ドッド夫妻の乗る艇〈スレイカ〉(13.44 m カッターヘッドケッチ)は、昨年9月、英国からメルボルンに向って出発しました。フランス、スペイン、ポルトガルを経て、現在マルタをクルージング中です。今後は、カリブ海、パナマ運河を経て太平洋へ、というルートでメルボルンへ向う予定です。

ドッド氏の職業はエンジニア、夫人は経理士。

◎スーザン・カー(38歳)、アンディ・カー(63歳)(米国)

この6年間、ヨットで生活をしながら、5マイル以上航海しています。1979年にはヨーロッパをクルージング、1982年には大西洋を横断、現在太平洋を横断中で、ニュージーランド付近をクルージングしています。参加艇は〈アンディアモⅢ〉12.979 mのカッター、ハンスクリスチャン43 T。スキッパーはスーザン。

◎グレアム F. ケンドール(39歳)、

スタン C. ピアソン(27歳)(ニュージーランド)

スキッパーのケンドール氏は、これまでにホノルル〜ニュージーランド、ニュージーランド〜オーストラリア、太平洋の島々へ10万マイルに及ぶクルージングと、5,000マイルのレース経験があります。クルーのピアソン氏も同様の豊かな外洋でのレース、クルージングの経験を持っています。職業はケンドール氏、不動産業、ピアソン氏はヨット建造業。参加艇は、15.25 m スループ〈アストラロローズ〉。

◎ジェームス・ベック(45歳)、チェリル・ベック(33歳)夫妻 米国 ノースカロライナ州

ベック氏はこれまでの人生をレース、クルージング、建造、チャーター業務等、何らかの形でヨットにかかわってきました。この3年間、夫妻はダブルハンドで東太平洋を2万マイルセーリングし、そのうち最も長い航海は3000マイルに及んでいます。参加艇は〈ターミガン〉、ウイリアン・クリーロックデザインの13.09 m、ウエストセイル43カッター。

◎ニコラス・ブレッティンガム・ムーア(31歳)、

ニコラ・イーストウッド(28歳) オーストラリア タスマニア州

スキッパーとクルーは、1984年3月、オーストラリアのホバートを出発し、ニュージーランド、トンガ、フィジー、ニューカレドニアを経て、これまでに1万マイルのクルージングをしてきました。ムーア氏の職業はヨット建造業、参加艇はハートレーのデザインによる10.29 mのスループ〈サザンソウジャー〉。

◎ロバート・D・ボナー(43歳) 米国 ニューヨーク州

ボナー氏は10年のヨット歴の中で、クルージングを楽しむ一方、635マイルのマリオン(マサチューセッツ州)——バミュダーレース1985等の地元のレースに出場してきました。今年6月にコネチカット州スタンフォードを出発し、メルボルンに向けて船を回航し

ます。クルーは年末までに決まる予定。参加艇はロン・ホランド設計の12.8 mのスループ〈ボンカーズ〉。

◎ウルフガング・クイックス(48歳)、アリス・ザイロス(31歳) 西ドイツ エバーズバーク

ホーン岬を回って世界一周を達成したスキッパーのクイックス氏は、これまでに大西洋横断シングルハンドレース2回、英国・アイルランド一周ダブルハンドレース4回の経験があり、今年も大西洋横断ダブルハンドレース1986に出場。クルーのザイロス氏はウィットブレッド世界一周レースのプロのチャータースキッパー。クイックス氏の職業はヨット建造業。参加艇〈ジャンテックスⅢ〉は、ゲオルグ・ニッセン設計、12 mのスループ。

◎ジム・クラーク(45歳)、ジェームス・クラーク(20歳) 親子 オーストラリア ニューサウスウェールズ州

マリンエンジニアであるスキッパーは自作艇でオーストラリアの東海岸や南太平洋を2万マイル以上帆船走してきました。昨年、親子は、シドニーから同じくオーストラリア北部のダーウィンまで2500マイル、ヨットを回航した経験があります。参加艇は〈ウィラリー〉、ジョー・アダムズ設計、14 mのマストヘッドスループ。◎ジョン・リドガード(54歳)、ヘザー・リドガード(53歳)夫妻 ニュージーランド オークランド市

リドガード氏は生まれた年、1931年にセーリングを始めました。1956年に初めてフィジーへの外洋航海を行って以来、およそ20万マイル、セーリングをしてきました。この中には、ダブルハンドによるレース8000マイルが含まれています。1983年に行われた、ニュージーランドのノースアイランド一周ダブルハンドレースにヘザー夫人と出場し、ファーストフィニッシュ艇となり、ハンディキャップAグループでも1位の成績を収めています。職業はヨット設計及び建造業。参加艇〈リウォード〉もリドガード氏の設計による13.5 mの木製カッター。

◎レックス・シルベスター(40歳)、トニー・クロップ(35歳) オーストラリア 北部地方

スキッパーもクルーもそれぞれ2万マイルを越える外洋レース、クルージングの経験があります。1985年に、彼らは、北部オーストラリア外洋選手権を勝ち取りました。参加艇〈ノーザンテリトリー〉は、ジョー・アダムズの設計による15.2 m、マストヘッドカッター。15社の企業と多くの人々が〈ノーザンテリトリー〉をスポンサーしています。

なお、すでにエントリーしている岡本卓也氏のクルーがこのほど宇野浩助君(18)に決まりました。ヤマハジュニアヨットスクールの第1期卒業生で現在までのエントリー者中、最年少です。

以上の7艇を加えて、4月10日現在のエントリーは15艇。内訳は、日本5、オーストラリア3、米国3、ニュージーランド2、英国1、西ドイツ1、となって

MELBOURNE/OSAKA DOUBLE-HANDED YACHT RACE 1987

Name of Yacht	Name of Skipper	Name of Crew	Entries	LOA	DISPL	Nationality	RADIO	
REWARD	John Lidgard	Heather Lidgard	86. 3. 5.	13,500M	13,300KG	BRITISH	VHF 110H SSB Teleadio	
WIRRALEE	Jim Clark	James Clark	86. 2. 11.	14,000M	7,000KG	AUSTRALIAN		
JEANTEX III	Wolfgang Quix	Aris Ziros	86. 2. 3.	12,000M	4,000KG	GERMAN	Clipper 2 200W 100KHz-300KHz VHF RT5000S 25W	
BONKERS	Robert D.Bonner		86. 1. 28.	12,800M	10,000KG	USA	SSBSeel166125W 100KHz-23,000KHz VHF 25W	
SOUTHERN SOJOURN	Nicholas Brettingham-Moore	Nicola Eastwood	86. 3. 3.	10,290M	8,500KG	AUSTRALIAN	CODAN8121 SSB80W ヤエスFRG8800レシーバー	
PTARMIGAN	James R. Beck	Cheryc A Beck	86. 2. 2.	13,090M	14,515KG	USA	VHF 25W HF HAM 100W	
ASTRAL	Graeme Frank Kendall	Sean Charles Pearson	85.12.12.	15,250M	23,582KG	NEW ZEALAND	コーデン SSB 60W VHFヘルコン 10W	
天 龍(仮名)	岡本卓也		85.12.14.	11,990M	5,115KG	日 本	ヤエス FT400c	
コウデン、オケラ 7	斉藤茂夫	多田雄幸	85.12.14.	16,000M	8,000KG	日 本		
ANDIAMO III	Susan Kerr	Andy Kerr	85.12. 2.	12,979M	14,320KG	USA	HAM DRACKET 100W VHF 2 W	
CANNAN	山村 昭	三宅 新	85.10. 3.	11,115M	4,920KG	日 本		
OIDON (仮名)	藤田弘治	栗山幸久	85. 7. 1.	10,593M	4,388KG	日 本		
SULEIKA	Alexander Stuart Dodd	Sarah Jane Dodd	85. 3. 10.	13,440M	18,300TG	BRITISH	ヤエス 757GX 50W Sailor Radio VHF 25W	
未 定	岡田由昌	丹羽穂子	85. 3. 4.	未 定	未 定	日 本		
HAVE KNOTS	William(Bill) A. Oxley	William(Will) G. Oxley	86. 4. 7.	14,580M	14,682KG	AUSTRALIAN	Sailor SSB R/T110 124 150W	1986年5月7日現在の (18隻の同別内わけ) イギリス 2 オーストラリア 5 ドイツ 1 アメリカ 4 ニュージーランド 1 日本 5 合計 18
SITKA	Brendan G. Hant	Joanne Margaret Hunt	86. 4. 9.	14,800M		AUSTRALIAN	SSB 80W	
SIR ISAAC	Fir Holt	John Lappala	86. 4. 8.	14,870M	11,800KG	USA	ICOMIIC-700 150W ICOM IC-80 25W	1. 6 to 24 in 100Hz Steps
NORTHERN TERRITOA	Lex Silvester	Tony Cropp	86. 3. 1.	15,200M	8,618KG	AUSTRALIAN	コーデン 200W ICOM 1720A	オールマリンバンド オールハムレムディイオ
MEIG	Durante Apain	未 定	86. 5. 6.	13,000M	12,000KG	FRANCE	ICOM-735 SSB, CW, AM, FM 200W	
タサキパベル of やっちゃん	森方志郎	森方志子	86. 5. 7.	11,000M	9,250KG	日 本	未 定	
ELEGANCE	A. J. B. Hunter	Mrs. K. Hunter	86. 4. 14.	14,630M	20,000KG	BRITISH	ICOM-720A 24.6 8MHz 175W VRFA	1986年5月13日現在の (22隻の同別内わけ) イギリス 3 オーストラリア 5 ドイツ 1 アメリカ 4 ニュージーランド 2 フランス 1 日本 6 合計 22
PECO	Peter James Johnson	Colleen Anne Johnson	86. 4. 7.	14,460M	19,000KG	NEW ZEALAND	Belcom VHF 55 Channels 25W 2MA 2316	

います。

丹羽夫妻がコースを試走

本レースへのエントリー第1号である愛知県の丹羽由昌・徳子夫妻が3月31日、レース海域の気象・海象を調査するため、36フィートのヨット〈シャングリラⅢ世〉で愛知県衣浦港を出発しました。

このたびの試走には、丹羽夫妻の他に3名が同乗し、サイパン、トラック、ガダルカナル、ソロモン、カロリンなどを廻り、6月10日頃に衣浦港に帰る予定です。今回のレースにおいて、エントリー者がコースを試走するのは初めてです。

レースにアルゴスシステムを使用

ダブルでは、参加ヨットの追跡手段として、アルゴスシステムと呼ばれる人工衛星を使った位置確認システムが使用されます。

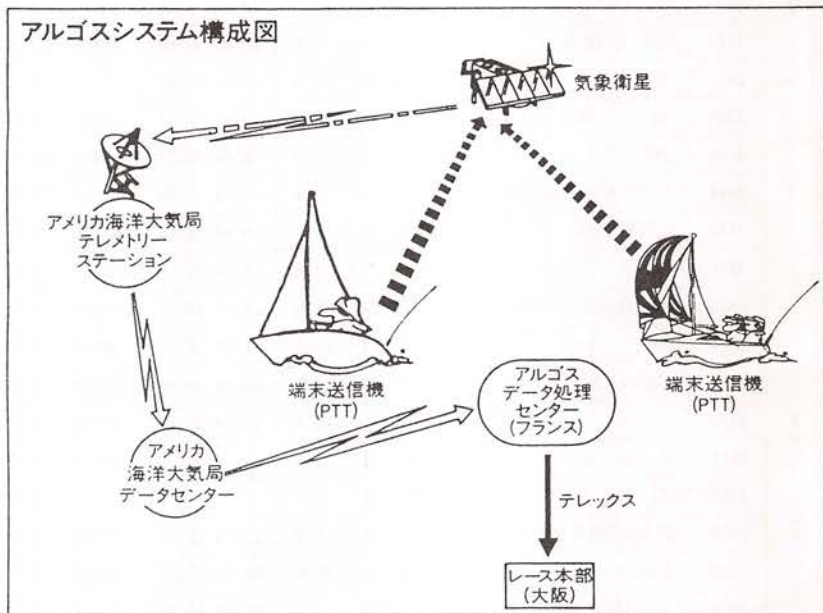
フランスと、アメリカの共同開発によるこのシステムは、物体の位置確認や気象・海象のデータを収集するために使われています。このシステムの最大の特徴は、システム利用者の端末送信機の位置が地球上の全域で確認できることです。本来の使用目的に加えて、近年、欧米諸国では、気象・海象データの収集と捜索救難を兼ねて、端末送信機をヨットに積み、外洋レースにも盛んに利用されています。

収集したデータを周期的に送信する端末送信機をPTTと呼び、32チャンネル

ルまでのデータを送信することが可能です。YAMAHA OSAKA CUPでは、2チャンネル—気象・海象データの収集に1チャンネル、緊急事態用に1チャンネルが使われます。PTTの位置は、送信周波数のドップラー偏移量から計算されます。アメリカの気象衛星に受信されたPTTからのデータは衛星メモリーに蓄積され、地上テレメトリーステーションに収集されます。フランスで処理された後、データは衛星が受信してから、3～6時間以内にシステム利用者のもとへ送られます。

YAMAHA OSAKA CUPでは、オフィシャルサプライヤーである東洋通信機株式会社（トヨコム）のご好意により、アルゴス用端末送信機が参加艇に提供され、レース経過についてホットな情報を皆さんにお届けすることになっています。尚、“アルゴス”とは、100の眼を持つといわれるギリシャ神話の怪物です。

アルゴスシステム構成図



初島レース(クルーザー・レーティング・クラス)

成績表 スタート時間 1986.5.18 17時50分

艇名	SALL 番号	着順	0.26 TCF	フィニッシュ 日時分秒	所用時	修正時	順位
EBONY 2	2959 P I O87O	2	0.715	19.4.36.56	38816	27753	1
WOOD STOCK	3363 YAM30S	1	0.7666	19.4.20.23	37823	28995	2
FLYING TINKERBEL	3305 YAM30C	3	0.7128	19.5.2.42	40362	28770	3
いざなみ	1642 T K25	5	0.6783	19.6.40.6	46206	31342	4
ANNABEL LEE	3487 VEN30	4	0.7458	19.6.21.19	45079	33620	5
あきつき	3497 J O Y24	6	0.6783	19.8.10.22	51622	35015	6
C-3 PO	3505 YAM30S	RET	—				

1986年 初島レース成績表

CL	Sail No.	艇 名	TYPE	R ft	フィニッシュ 日 時 分 秒	所要時間 (秒)	T.C.F.	修正時間 (秒)	クラス 順位	総 合 順位
I	3280	瑠 璃 光	KAN 45	34.5	18.03.34.00	34440	0.8474	29184	A-22	36
II	188	CONTESSA VIII	DOU 42	32.7	18.03.32.25	34345	0.8318	28568	A-18	32
	2535	ALOHA	TAK 41	30.3	18.03.34.22	34462	0.8105	27931	A-9	20
	3215	SEA LION	H T 42	31.2	18.03.35.30	34530	0.8186	28266	A-11	23
	3220	KARASU	TAK 40	30.1	18.03.44.19	35059	0.8086	28349	A-13	27
	3233	SEE ADLER V	DOU 42	32.3	18.03.39.39	34779	0.8283	28807	A-20	34
	3335	織 姫	FRE 40	31.5	18.03.37.18	34638	0.8212	28445	A-14	28
	3410	ZERO II	FRE 40	31.5	18.03.51.51	35511	0.8212	29162	A-21	35
	3519	LAVIEEN ROSE	J - 41	30.2	18.03.36.29	34589	0.8095	28000	A-10	21
III	380	THETIS III	U - 38	29.5	18.03.50.36	35436	0.8031	28459	A-16	30
	3295	あ さ ま	YAM 38	28.5	18.03.40.59	34859	0.7939	27675	A-7	14
IV	2182	KELONIA	YOK 33	24.2	18.03.53.31	35611	0.7520	26776	A-1	1
	2263	DISCO DORI	D B 2	24.6	18.04.07.00	36420	0.7560	27534	A-6	11
	2640	青 海 波	KIH 33	24.6	18.04.29.40	37780	0.7560	28562	A-17	31
	2857	白 鯨	IKE 34	24.5	18.04.13.31	36811	0.7550	27792	A-8	17
	3039	SOUJI	VEA 30	23.3	18.04.35.50	38150	0.7427	28334	A-12	26
	3044	MRS. MEDAUSAE	TAK 33	24.4	18.04.29.00	37740	0.7540	28456	A-15	29
	3152	CRIMSON	TAK 36	25.9	18.03.54.36	35676	0.7690	27431	A-5	10
	3290	海 太 朗 III	HOL 33	24.6	18.04.04.09	36249	0.7560	27404	A-4	9
	3530	SUMMER KNOWS	TAK 34	24.8	18.03.48.59	35339	0.7580	26787	A-2	2
	3531	陽 焰	YOK 32	23.2	18.04.10.15	36615	0.7417	27157	A-3	5
	3561	CAETLA	VEN 30	23.7	18.04.38.48	38328	0.7468	28623	A-19	33
V	1155	一 乗 III	YOK31N	22.4	18.04.28.22	37702	0.7333	27647	B-7	13
	2011	が め ら	TAK 31	22.3	18.04.35.32	38132	0.7322	27920	B-11	19
	2965	つ る ぎ	NAK 31	21.1			0.7270			
	2970	POINCIANA II	U - 30	21.4	18.04.22.29	37349	0.7226	26988	B-1	3
	3002	SYLPHIDES 3	NAK 31	21.6	18.04.51.07	39067	0.7248	28316	B-14	25
	3088	BUMBLE BEE III	YAM30S	22.5	18.04.42.08	38528	0.7343	28291	B-13	24
	3236	NEFUNOREO	YOK 31	22.3	18.04.21.59	37319	0.7322	27325	B-5	8
	3306	RIPPLE II	YOK 31	22.4	18.04.38.13	38293	0.7333	28080	B-12	22
	3333	TABATHA III	YOK 31	22.5	18.04.28.43	37723	0.7343	27700	B-9	16
	3373	AFRODITA	YOK 28	21.7	18.04.26.22	37582	0.7258	27277	B-4	7
	3387	BASIC	YOK 28	21.6	18.04.33.11	37991	0.7248	27536	B-6	12
	3447	VERMILION	H T 31	22.4	18.04.19.15	37155	0.7333	27246	B-3	6
	3510	TRACER	TAK 31	22.2	18.04.31.16	37891	0.7311	27695	B-8	15
	3518	は 組	Y R 30	22.7	18.04.12.30	36750	0.7364	27063	B-2	4
	3551	FIN MARCHEUR	Y R 30	22.7	18.04.29.11	37751	0.7364	27800	B-10	18

総合優勝

クラスA優勝

クラスB優勝

初島シルバーカップ

Aグループ初島杯

Bグループ初島杯

KELONIA

KELONIA

POINCIANA II

第12回オレンジカップレース成績表

1986 5.3~5 SUNTOPIA Y.C.

SAIL NO.	艇 名	TYPE	T.C.F.	第 1 レ ー ス			第 2 レー ス	第 3 レ ー ス			第 4 レ ー ス			総合成績	
				着順	修正順位	得点		着順	修正順位	得点	着順	修正順位	得点	TOTAL	順位
2929	ARGONAUT	TAK 26	0.6970	25	7	41.00		39	2	69.00	13	2	55.20	165.20	1
3448	I'M SORRY-2	FARR 1/2	0.7258	21	13	35.00		23	3	67.50	9	1	56.70	159.20	2
3201	SEIHAKO	TAK 30	0.7301	14	4	44.00		17	4	66.00	20	17	37.20	147.20	3
3280	KANATA	KAN 23	0.6650	41	14	34.00		41	1	70.88	38	18	36.00	140.88	4
3533	WIZARD-6	JEAN 1/2	0.7322	9	3	45.00		14	6	63.00	25	25	27.60	135.60	5
3550	SCHNAUZER	TAK 32	0.7417	20	18	30.00		13	16	48.00	12	5	51.60	129.60	6
3515	SOD BLONDINE	X - 3/4	0.7560	12	8	40.00		11	24	36.00	10	9	46.80	122.80	7
3537	WILL	YR.FARR 40	0.8123	1	1	47.25		1	34	21.00	1	3	54.00	122.25	8
1203	KORYU-8	YOK 32	0.7343	22	19	29.00		25	9	58.50	21	20	33.60	121.10	9
3344	WILL DASH	YR 30	0.7354	18	10	38.00		30	12	54.00	24	26	26.40	118.40	10
3178	COW BELL	TAK F	0.7322	370	28	20.00		12	5	64.50	22	21	32.40	116.90	11
3538	CHACHA	YR.FARR 40	0.8141	2	2	46.00		2	36	18.00	4	7	49.20	113.20	12
2226	AMOREUX	YOK 33	0.7530	15	11	37.00		9	23	37.50	17	16	38.40	112.90	13
3223	RYUSEI	YOK 31	0.7322	24	20	28.00		35	13	52.50	23	22	31.20	111.70	14
3413	MR. MOHRUN	YOK 32	0.7396	29	30	18.00		21	17	46.50	14	10	45.60	110.10	15
3231	COSUMOSU	YOK 32	0.7406	17	16	32.00		31	21	40.50	19	19	34.80	107.30	16
3400	FATES	YOK 32	0.7385	28	29	19.00		28	18	45.00	16	12	43.20	107.20	17
3540	BAFFI-2	YOK 39	0.8150	5	6	42.00		6	39	13.50	3	6	50.40	105.90	18
3357	SPICA-3	YR 30	0.7343	33	31	17.00		37	19	43.50	15	11	44.40	104.90	19
1090	ST. APOLONIA	YOK 40	0.8123	6	9	39.00		8	40	12.00	2	4	52.80	103.80	20
3316	LE. VERSEAU	YR 30	0.7364	26	23	25.00		24	11	55.50	33	30	21.60	102.10	21
3209	IMPRESSION	YOK 31	0.7333	35	34	14.00		18	8	60.00	30	28	24.00	98.00	22
2333	TOGO-8	YAK 42	0.8292	3	5	43.00		3	41	10.50	6	14	40.80	94.30	23
2676	YOI YOI	J - 24	0.7237	31	24	24.00		40	22	39.00	32	23	30.00	93.00	24
2867	TOUMEI	TAK 32	0.7280	38	37	11.00		26	7	61.50	37	35	15.60	88.10	25
2211	CALINO	YOK 40	0.8123	8	17	31.00		32	44	6.00	5	8	48.00	85.00	26
3434	LOCO-3	TAK - F	0.7333	36	36	12.00		34	15	49.50	31	29	22.80	84.30	27
3455	ASAKAZE	NIC 30	0.7301	37	35	13.00		36	10	57.00	40	39	10.80	80.80	28
3115	MISTRESSHANA	DOU 38	0.8086	7	15	33.00		7	37	16.50	11	24	28.80	78.30	29
3202	TOP MORNING	YOK 32	0.7385	34	33	15.00		20	14	51.00	39	38	12.00	78.00	30
3336	TACK	YOK 33	0.7530	23	25	23.00		22	25	34.50	29	31	20.40	77.90	31
3279	SAGHI-3	YR 34II	0.7679	10	12	36.00		27	32	24.00	28	36	14.40	74.40	32
3456	PANSE	YOK31N	0.7343	40	40	8.00		38	20	42.00	35	33	18.00	68.00	33
3370	MIX MAX	KAN 23	0.6674	43	22	26.00		PMS	PMS	1.50	36	15	39.60	67.10	34
1777	CAZA-7	YAK 41	0.8150	19	41	7.00		5	38	15.00	8	13	42.00	64.00	35
3445	WAKE UP	YOK30N	0.7354	44	44	4.00		44	27	31.50	27	27	25.20	60.70	36
2800	SAKI-6	YOK 39	0.8077	11	26	22.00		4	35	19.50	18	34	16.80	58.30	37
2300	LA. REINA	TAK 36	0.7679	16	21	27.00		15	31	25.50	RET	RET	2.40	54.90	38
3302	TRYANGLE	HITEC 34	0.7620	32	42	6.00		29	29	28.50	34	37	13.20	47.70	39
3331	RIUAGE	HITEC 34	0.7640	27	39	9.00		19	28	30.00	41	42	7.20	46.20	40
3151	TODD	NAK 295	0.7290	39	38	10.00		43	26	33.00	DNF	DNF	2.40	45.40	41
2069	THIRTY-3	FAR 920	0.7396	42	43	5.00		42	30	27.00	42	41	8.40	40.40	42
2228	GINGA-7	YOK 39	0.8095	13	27	21.00		16	42	9.00	26	40	9.60	39.60	43
3547	EDMAGIC	DUB 23	0.6637	45	32	16.00		DNF	DNF	1.50	43	32	19.20	36.70	44
3132	AQUARIUS	TAK 34	0.7670	DNF	DNF	1.00		33	33	22.50	DNF	DNF	1.20	24.70	45
3521	MIHO	YOK 41	0.8212	4	DSQ	0.00		10	43	7.50	PMS	PMS	2.40	9.90	46
3345	EMI	Y 30C	0.7172	46	45	3.00		DNF	DNF	1.50	RET	RET	2.40	6.90	47

THE 5th ORANGE FESTIVAL RACE

順位	着順	艇名	T.C.F. TYPE	所要時間	修正時間
1	4	DON	0. 6723 Y-25 II	3時 22分 8秒	2時 15分 54秒
2	1	MAD SKIPPER	0. 7226 JOY-26	3時 14分 22秒	2時 20分 27秒
3	9	CHUCK	0. 6662 Y-21 S	3時 33分 33秒	2時 22分 16秒
4	12	SEA TRECK	0. 6723 Y-25 II	3時 37分 14秒	2時 26分 3秒
5	5	FAIRY	0. 7150 G.S.30	3時 26分 0秒	2時 27分 17秒
6	2	TWO TON	0. 7364 F.920	3時 22分 5秒	2時 28分 49秒
7	13	THE FEW	0. 6783 リベッチオ	3時 39分 32秒	2時 28分 55秒
8	6	EPISODE	0. 7226 J-24	3時 29分 10秒	2時 31分 9秒
9	17	PLIMAVELLA	0. 6723 Y-25 II	3時 45分 42秒	2時 31分 44秒
10	3	SWING	0. 7519 オブテマ101	3時 22分 7秒	2時 31分 58秒
11	7	IONATY-2	0. 7375 VSNT.F	3時 29分 26秒	2時 34分 27秒
12	8	ESPELANSA	0. 7427 Y-33	3時 30分 54秒	2時 36分 38秒
13	11	LA. ONDINA	0. 7273 J-24	3時 36分 37秒	2時 37分 33秒
14	10	BLUE SUNSHINE	0. 7375 VANT.F	3時 34分 23秒	2時 38分 6秒
15	18	LUCKY TOO	0. 7204 NIC.30	3時 45分 58秒	2時 42分 47秒
16	16	LE. LAGON	0. 7290 MS.34	3時 43分 50秒	2時 43分 10秒
17	15	HAND SPUN-3	0. 7375 VANT.F	3時 49分 18秒	2時 44分 41秒
18	19	DECISION	0. 7226 JOY-26	3時 49分 55秒	2時 46分 8秒
19	14	CATALYST	0. 7499 カタマラン	3時 42分 29秒	2時 46分 50秒
20	21	TAISEIMARU	0. 7139 CK.32	3時 57分 17秒	2時 49分 24秒
21	20	LEILANY	0. 7237 YOK.28	3時 54分 51秒	2時 49分 58秒
RET	RET	ALBIREO-2	0. 7892 T & P.42		
RET	RET	MARINE CARE	0. 6901 トランパー		
RET	RET	SEA QUINTE	0. 6723 Y-25 II		
RET	RET	BAKU-3	0. 7385 オナー-35		
RET	RET	SANPEI 2	0. 7375 VAVT.F		
RET	RET	YUKI-3	0. 7226 NISAN.30		
RET	RET	ELE	0. 7204 Y-30		
RET	RET	ZERO POINT	0. 7128 DOU.30		
RET	RET	FORUM	0. 7128 DOU.30		
RET	RET	AMAGIRI	0. 6600 バイラー-30		
RET	RET	SEA OTTER	0. 6959 ST.27		
RET	RET	ENTERTAINER-3	0. 7172 自作		

サムタイムカップ成績表

61.5.5 葉山沖

<その1>

CL	SAIL No	艇名	艇長名	船種	Rft	フリート名	T.C.F	フィニッシュ時刻 時 分 秒	所要時間 時 分 秒	修正時間 秒	順位 クラス	位 総合
I	3 2 1 0	ロシナンテ	大口 真司	TAK-45	35.1	シーボニア	0.8525			DNC		
	3 2 8 0	瑠璃光	菅原 留意	KN-45	34.5	高知 屋	0.8474	11:43:30	1:43:30	5262	A-1	2
	J 3 2 1 5	シーライオン	西田隆太郎	KIH-42	31.2	芦名マリンクラブ	0.8186	11:48:59	1:48:59	5353	A-4	9
II	3 2 3 3	SEE ADLER V	島本 洋一	DOU-42	32.3	葉山	0.8283	11:46:01	1:46:01	5269	A-2	3
	3 5 1 9	ラビアンローズ	吉田 正雄	J-41	30.2	シーボニア	0.8095	11:50:24	1:50:24	5362	A-5	10
	1 8 8	CONTESSA	今岡 又彦	DOU-42	32.7	油壺	0.8318	11:57:52	1:57:52	5882	A-11	54
	3 3 5 5	雪風	斉藤 皓保	YOK-42	30.2	江の島	0.8095	11:52:05	1:52:05	5444	A-6	16
	3 4 1 0	ゼロ II	津村 重幸	FRE-40	31.5	三崎マリン	0.8212	11:46:58	1:46:58	5270	A-3	4
	J 2 8		坂上 智文	ソリング	27.5	江の島	0.7844			DNC		
III	J 2 7		森 パール	ソリング	27.5	"	0.7844	12:06:23	2:06:23	5948	A-12	57
	J 3 1	マキ	亀谷 彰夫	ソリング	27.5	"	0.7844	12:06:45	2:06:45	5965	A-13	58
	2 9 6 0	Q'ROKU	溝口 哲也	Y-36	26.1	諸磯	0.7709	11:58:40	1:58:40	5489	A-7	19
		ミスニッポン	松本富士也	コロンビア-36	26.1	葉山	0.7709	12:12:56	2:12:56	6149	A-14	67
	3 1 5 2	クリムゾン	竹川 節男	TAK-36	26.2	三崎マリン	0.7719	11:59:03	1:59:03	5514	A-8	21
	3 5 5 5	おいどん	藤田 弘治	Y-C35CR	26.5	油壺	0.7748	12:18:58	2:18:58	6460	A-15	85
	2 8 1 7	マテシロウ	杉山 直行	ホランド-37	27.5	浦賀	0.7844	12:02:59	2:02:59	5788	A-10	49
	3 3 6 0	エレクトロン	小高 敏夫	Y-39CR	29.0	逗子	0.7985	11:58:20	1:58:20	5669	A-9	36
	3 0 5 0	シグナスIII	村岡 一男	伊藤-34	25.1	江の島	0.761	12:00:48	2:00:48	5516	B-5	22
IV		ブルーマーキス	加藤 典夫	Y-35C	24.0	葉山	0.7499			DNC		
	2 8 1 6	ホワイトクレスト	浅生 重捷	バイオニア10-2	25.0	アズリ	0.76			DNC		
	3 5 6 1	Sá et Lá	沼田 尚文	VEN-30	23.6	逗子	0.7458	12:04:48	2:04:48	5585	B-7	29
	8 2 1 1	リアランス	笹原 経夫	Fuji-35	24.0	アズリ	0.7499			DNC		
	3 3 0 9	アーリーバード	長束 盛隆	VEN-30	23.6	"	0.7458	12:15:22	2:15:22	6057	B-11	63
	3 4 8 7	ANNABELLEE II	廣本 裕一	VEN-30	23.6	諸磯	0.7458	12:39:44	2:39:44	7148	B-16	98
	3 4 6 6	AZZURRA	高月 英五	Y-33	24.0	葉山	0.7499	12:08:30	2:08:30	5782	B-9	47
	2 4 6 0	青海波	清田 博	KIH-33	24.6	油壺	0.756	12:02:15	2:02:15	5545	B-6	27
	3 2 9 0	海太郎 III	小谷 周三	ホーランド-33	24.6	葉山	0.756	1:57:54	1:57:54	5348	B-3	8
	3 5 3 1	陽 焰	川久保史朗	YOK-32	23.2	諸磯	0.7417	12:01:24	2:01:24	5403	B-4	11

〈その2〉

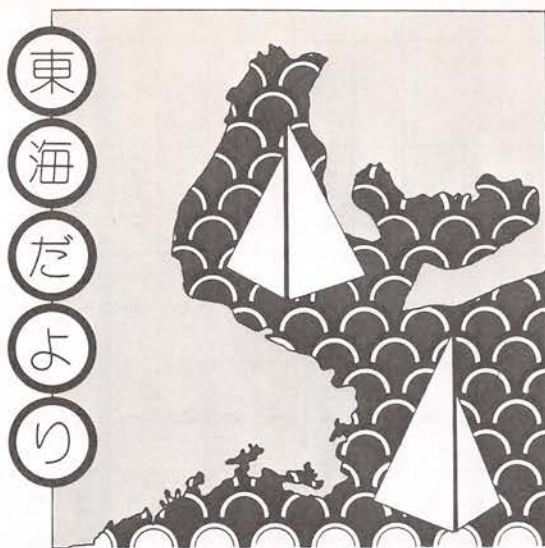
CL	SAIL No.	艇名	艇長名	船種	Rft	フリート名	T.C.F	フィニッシュ時刻 時 分 秒	所要時間 時 分 秒	修正時間 秒	順位 クラス	総合 位
IV	2263	DISCO DOLLY	ハズレローター	dB-2	24.6	高知 屋	0.756	11:54:53	1:54:53	5211	B-1	1
	2690	くろお III	斎藤 倫彦	なかよし-34	24.2	小網 代	0.7519	12:16:23	2:16:23	6153	B-13	70
	669	CORVATSC II	浅野 英武	U-32	23.8	油 壺	0.7479	12:13:52	2:13:52	6007	B-10	60
	2986	ソリチュード	山田 凱通	VEN-30	23.6	葉 山	0.7458	12:07:33	2:07:33	5708	B-8	38
	3145	ユニコーン V	武田貴太郎	Y-33II	23.8	"	0.7479	12:17:05	2:17:05	6151	B-12	68
	1987	DOZN-A	鈴木 義治	DOU-33	24.4	アブズリ	0.754	12:16:13	2:16:13	6162	B-14	72
		J-29	金指 昭郎	J-29	25.1	佐 島	0.761	11:56:24	1:56:24	5315	B-2	5
	2011	がめら	朝河 清	TAK-31	22.3	シーボニア	0.7322	12:08:55	2:08:55	5664	C-19	35
V	3387	BASIC	大川 昌志	YOK-28	21.6	"	0.7248	12:08:27	2:08:27	5586	C-15	30
	3333	タバサ III	飯島福太郎	YOK-30	22.5	"	0.7343	12:04:03	2:04:03	5465	C-8	18
	1155	一乗 III	青山 恒昌	YOK-30	22.5	小網 代	0.7343	12:04:54	2:04:54	5503	C-9	20
	2303	COUNTRY-BUM V	楠本 育平	YOK-30	22.5	三崎マリナ	0.7343	12:01:01	2:01:01	5332	C-2	7
	1960	HIPPO	安高 知二	ゴールデン シャムロケット30	21.8	"	0.7269			PMS		
	3794	スーパークイズ	清水 宗治	J-24	21.8	"	0.7269	12:06:35	2:06:35	5521	C-10	23
	1808	八丈 III	近藤 慎之	なかよし-30	21.5	小網 代	0.7237	12:25:30	2:25:30	6318	C-39	81
		シムン	斉藤 憲一	YOK-30	22.5	葉 山	0.7343			DNC		
		ストーク	柴田 義明	デュフォー-27	21.5	アブズリ	0.7237			DNC		
	2321	ADELAIDE II	深井 豊香	Y-30S	22.5	葉 山	0.7343	12:21:07	2:21:07	6217	C-37	76
	0913	パンボ-III	白浜 義雄	オケラ-30	21.8	アブズリ	0.7269			DNC		
	2466	MERLUZA V	杉田 泰一	なかよし-295	22.0	諸 磯	0.729	12:10:04	2:10:04	5689	C-20	37
		PHOENIX	大石 雅章	Y-30CII	21.8	シーボニア	0.7269	12:08:40	2:08:40	5612	C-17	32
	3465	TIBURON	高橋 敏男	アリカー-27	21.8	逗 子	0.7269	12:21:40	2:21:40	6179	C-36	73
	1945	フェスタ	吉田 豊	DOU-30	21.8	葉 山	0.7269	12:12:14	2:12:14	5767	C-25	45
	3213	CAPTAIN CARIBE	桜田 隆	TAKサンデー850	21.9	京急マリナ	0.7280	12:34:13	2:34:13	6736	C-44	93
		ネフノレオ	馬谷 原	YOK-30	22.3	葉 山	0.7322	12:10:21	2:10:21	5727	C-21	39
	3306	リップル	鈴 俊広	YOK-31	22.5	諸 磯	0.7343	12:03:18	2:03:18	5432	C-6	15
	1735	桜 工	戸沢 和久	バサト-レ	20.5	小網 代	0.7128	12:23:51	2:23:51	6152	C-35	69
	3554	バルキリア II	今泉 健一	YOK-28	21.8	グリーンクラブ戸名	0.7269	12:08:10	2:08:10	5590	C-16	31
	3417	亜香里 II	佐々木 隆	Y-30S	22.5	葉 山	0.7343	12:10:14	2:10:14	5738	C-23	41
		スーパーフラワー III	小林 茂	Y-30S	22.5	シーボニア	0.7343	12:05:51	2:05:51	5545	C-13	26
	2616	ジュルビアン III	三宅 直晴	なかよし-295	22.2	逗 子	0.7312	12:12:53	2:12:53	5830	C-27	51
	3088	パンフルビー	北山 享	Y-30S	22.6	三崎マリナ	0.7354	12:05:41	2:05:41	5546	C-14	28
	370	草 駄 天	林 賢之輔	H-26	21.0	アブズリ	0.7183	12:37:13	2:37:13	6776	C-45	94

〈その3〉

CL	SAIL No.	艇名	艇長名	船種	Rft	フリート名	T.C.F	フィニッシュ時刻 時 分 秒	所要時間 時 分 秒	修正時間 秒	順位 クラス	合計 位
V	184	ジョビアル・フアイブ	潮尾 征男	Y-30II	22.0	葉 山	0.729	12:15:30	2:15:30	5927	C-29	55
	3559	GARDENIA	樫村 隆雄	NISSAN-30	22.3	"	0.7322	12:16:19	2:16:19	5989	C-30	59
	2371	デルフイナ	西村 敏章	DOU-30	21.2	"	0.7204	12:29:54	2:29:54	6479	C-41	87
	2959	エボニー II	武盛 久彦	PIONER870	22.0	"	0.729	12:18:14	2:18:14	6046	C-32	62
	2028	魁 II	入月 一夫	DOU	21.7	"	0.7258	12:11:38	2:11:38	5732	C-22	40
	3447	バーミリアン	安田雄一郎	KIH-31	22.0	"	0.729	12:03:48	2:03:48	5415	C-4	13
	3019	ビグデイル V	堀江 和博	なかよし-295	22.0	三 崎	0.729	12:19:16	2:19:16	6092	C-33	64
	3551	フィンマルショウ	渡辺 伸一	Y-R30	22.7	逗 子	0.7364	12:05:13	2:05:13	5533	C-11	24
	1672	ゴゴン	市村 俊明	Y-30スカンピー	21.7	油 壺	0.7258	12:24:06	2:24:06	6275	C-38	77
	3493	インディアンライラック	熊谷 直市	Y-30si	21.8	沼 津	0.7269	12:20:09	2:20:09	5327	C-34	66
		ティンカーベル	市原 恭夫	N-270	21.7	諸 磯	0.7258	12:42:23	2:42:23	7071	C-47	97
	3055	サモア V	大石 巖	U-31	22.1	シ ー ポ ニ ア	0.7301	12:06:34	2:06:34	5544	C-12	25
	3002	シルフィード 3	瀬谷 和行	KIH-31	21.6	"	0.7248	12:04:35	2:04:35	5418	C-5	14
	3510	TRACER	三宅 智久	TAK-31F	22.2	諸 磯	0.7312	12:03:13	2:03:13	5406	C-3	12
	3373	アフロディーテ	菅野 道成	YOK-28	21.7	シ ー ポ ニ ア	0.7258	12:09:16	2:09:16	5277	C-18	34
VI		マイリリーグリーン	柴田 大成	Y-28SP	21.8	葉 山	0.7269	12:32:47	2:32:47	6663	C-43	92
		JOJO	中村 順次	Y-30C	21.7	"	0.7258	12:30:50	2:30:50	6568	C-42	90
	3235	留美蘭	西川 正洋	Y-26C	18.3	荒 崎	0.6878			DNF		
	2114	KEI	保利 隆	N-240	18.5	諸 磯	0.6901			DNF		
	1159	シンバイナイ	佐原 進	コロンビア22	18.0	江 の 島	0.6843			DNF		
	3282	ウィンドフォーカー	野沢 等	Y-26S	18.5	シ ー ポ ニ ア	0.6901	12:19:39	2:19:39	5782	D-5	48
	3180	トリウムフィッシュ	中田 久男	Y-26C	18.3	江 の 島	0.6878	12:22:24	2:22:24	5877	D-6	52
		フィンランディヤ	藤島 幹男	キャナル-23	17.0	葉 山	0.6723			DNF		
	5634	スターナ 2	藤山 勝治	エクメドール	17.8	シ ー ポ ニ ア	0.6819			DNF		
	3216	WINDS II	糸川 裕志	Y-26C	18.3	葉 山	0.6878	12:29:58	2:29:58	6189	D-10	74
		PEARLITE III	神村 勝之	ソレイユルボン	18.5	"	0.6901	12:36:03	2:36:03	6461	D-15	86
	3354	WIND FAIRY	榎本 栄治	Y-26C	18.3	"	0.6878	12:32:40	2:32:40	6300	D-12	79
	3262	アルファード	奥平 幸彦	ハイグレース26	18.5	"	0.6901	12:32:31	2:32:31	6315	D-13	80
	2568	BREEZE IV	朝倉 宏	Y-26C	18.2	"	0.6866	12:32:53	2:32:53	6298	D-11	78
	2219	PEGASUS	北村 勝彦	TAK-26	18.5	シ ー ポ ニ ア	0.6901	12:15:45	2:15:45	5621	D-1	33
	2070	JUGEMU II	北川 修身	ピーターソン26	18.0	ア プ ズ リ	0.6843			DNF		
	1023	アフロディーテ III	久米 力	ソレイユルボン	18.5	"	0.6901	12:28:36	2:28:36	6153	D-9	71
	313	バンドラ II	和田 重徳	小田 6.75	18.0	"	0.6843			DNF		

＜その4＞

CL	SAIL No.	艇名	艇長名	船種	Rft	フリート名	T.C.F	フィニッシュ時刻 時 分 秒	所要時間 時 分 秒	修正時間 秒	順位 クラス	総合 順位
VI		コンドル	小野 邦良	Y-26C	18.3	葉 山	0.6878	12:24:08	2:24:08	5948	D-7	56
		サザンクロス	富塚 実	Y-26S	18.5	"	0.6901			DSQ		
	2427	タック II	小田切満寿雄	Y-24	18.5	"	0.6901	12:33:44	2:33:44	6365	D-14	83
	2534	AMISTA	坂野 昌孝	エクスドール	17.8	"	0.6843			DNF		
	2513	ブルーハルサー	黒田 高正	林-19	16.9	江 の 島	0.6711	12:23:02	2:23:02	5759	D-4	46
	3406	トワイライト	古川 芳葉	Y-26S	18.5	京急マリーナ	0.6901	12:19:06	2:19:06	5760	D-2	42
	7	イーグル III	菅原 庄治	Y-26CEX	18.3	シーボニア	0.6878	12:40:05	2:40:05	6606	D-16	91
		Tomorrow	桑原 祥之	ソレイコルボン	18.5	葉 山	0.6901	12:27:12	2:27:12	6095	D-8	65
		サザンクロス II	伊藤 和正	Y Y-26C	18.3	"	0.6878			DNC		
	3480	そよかぜ V	古川 考俊	Y-23	17.0	金沢八景	0.6723	12:22:47	2:22:47	5760	D-3	43
VII		LUCIFOR	相良不二男	Y-25II	18.0	シーボニア	0.6843			DNF		
		プレスデージ	近藤 等	Y-21C	16.5	諸 磯	0.6662			DNF		
	0001	牛若丸	矢吹 政雄	キングフィッシャー	16.0	アブズリ	0.66			DNF		
	107	ALBATROSS	矢吹 秀郎	Y-22DX	16.5	"	0.6662			DNF		
		LUCY	京谷 弘也	Y-21C	16.5	葉 山	0.6662	12:42:11	2:42:11	6483	D-19	88
		あい	中川 興一	Y-21S	16.8	"	0.6699	12:37:35	2:37:35	6334	D-18	82
	2995	SUISUI	松崎 孝男	林-19	16.4	江 の 島	0.665	12:35:45	2:35:45	6214	D-17	75
		ジョイ	宮崎 博行	Y-21J	16.8	逗 子	0.6699	12:42:00	2:42:00	6511	D-20	89
		ESMERALDA	加納 謙治	Y-21C	16.5	葉 山	0.6662			DSQ		
	P600	ナデイーン	新井 慈弥	P-600	16.3	アブズリ	0.6674			DNF		
IV	1403	VOLANS	高田 匠之	TODA-32	24.0	油 壺	0.7499	12:33:47	2:33:47	6919	C-15	96
	3584	CHINA TOWN	石田 幸博	J-24	21.8	三崎マリン	0.7269	12:05:09	2:05:09	5458	C-7	17
	3589	NOWAKI	井坂 博基	J-24	21.8	佐 島	0.7269	12:13:13	2:13:13	5810	C-26	50
	2866	ReflecTion	土屋美紀子	J-24	21.8	三崎マリン	0.7269	12:14:47	2:14:47	5878	C-28	53
	2707	Spring	近藤 宏則	Y-30SKA	21.7	江 の 島	0.7258	12:26:27	2:26:27	6378	C-40	84
	3305	Flying Twinkbell	別部 尚司	Y-30C	20.8	三崎マリン	0.7161	12:20:33	2:20:33	6039	C-31	61
	2143	孫悟空 III	大河原孫一	バスポートレ.V	20.6	佐 島	0.7139	12:14:33	2:14:33	5763	C-24	44
	3045	Laurencin	鎌田 祥一	N-270	21.7	葉 山	0.7258	12:36:16	2:36:16	6805	C-46	95
	3518	は 組	野口 隆司	Y-R30	22.7	木 更 津	0.7364	12:00:33	2:00:33	5326	C-1	6
		Sun barn	土橋 昭夫	リュンドメ	16.5	馬 入	0.6662			DNF		
VII		JAM	田中 新乙	リュンドン	16.5	葉 山	0.6662			DNF		



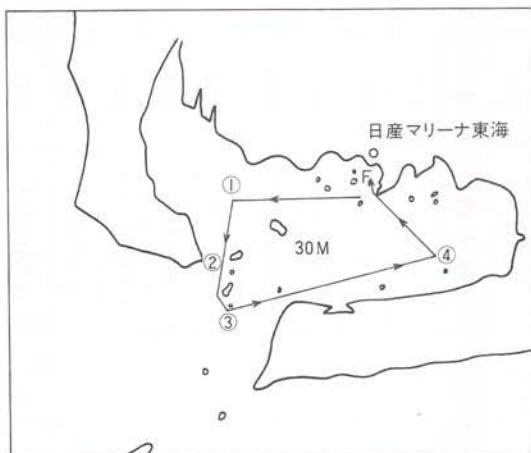
1986年度 野島レース優勝記

〈CHEERFUL—V〉 3398 Y—30 R

四日市フリート

小川伸也

4月6日07:00日産マリーナ東海近くの宿を出る。今回のクルーはフルメンバープラスK氏の協力にて参加となる。08:00スタート、まずまずの上スタートである。各艇スターボードにて沖寄り、またポートにて岸寄りに別れるが、後に岸寄り有利となった。我艇は中間近くのコースをとったため岸寄りの〈ナルミ〉、〈フローレス〉に先行される。第1マーク生田ブイ近くまでになんとか追いついたが、各艇風ナシのため止まっている。我艇は少ない風をひろい集め生田ブイに向かって先行し、大型艇の〈マーク〉及び〈ビンド〉を追う。



この生田ブイ近くは微風ながら気圧の少しの谷間なのか風は90度以上振れ回り全艇苦労したと思われるが、我艇はなんとか早目に抜けて09:53〈ビンド〉を追う。第2マークの角石までスピンを上げたりして〈ビンド〉に接近する。

第3マークの野島までに少し後続艇を離す。

野島回航11:19先行艇の〈マーク〉は岸寄りに向かうのを確認。次の〈ビンド〉は中間コースをとるのを確認しながら、野島のプランケットを無視して島近くをつつ切る。先行大型艇はベタにつかまっているのを見て、我艇は沖寄りのコースに決定した(なおこのコースは昨年と逆である)。しかし風は落ち、後続艇が少し追いついて来た。だが沖よりに風が吹き始め、岸寄りコースにとった先行大型艇及び後続艇をしり目にジャイブをくり返し、少しずつ先行して第4マークをトップにて14:30回航、後風速は増す。岸寄りコースより〈カレラ〉が抜け出し追ってくるが、なんとか振り切って日産マリーナ前にてファーストフィニッシュとなった。

ユメの様である。野島レース2年連続優勝のうえファーストホームという事もあり、全クルーの顔は喜びで一杯だった。

レース雑感

八木 正雄

86年東海支部の初レースという事で出艇数が少ないかと心配したが、出艇数17艇という昨年の平均をオーバーしたものとなった。

今年最初を飾るレースでいずれも新鋭、ベテランぞろいで、大型艇の〈ビンド7〉、〈マーク〉等と近年性能向上の著しいハーフトン勢との戦いに非常に興味もたれるレースであった。

7:30よりスタートマーク設置をする。北西の風4~6M、絶好の風である。

8:00スタート、スーパールーシーが1秒程度早く、リコール、再スタートした以外は全艇ジャストスタート? さすがNORCのレースというところであった。〈マーク〉、〈ビンド〉を先頭にスタート20分程で梶島方向の視界外へ消えて行き、幡豆沿岸はその後良い風にめぐまれ、今回のレースは早いテンポで進むものと、レース本部では12:00よりFINISH WATCHを続けていたが、野島付近のカームで再スタート、その後も微風の続くレース展開となりファーストホームが15:48と遅い展開のレースとなった。陸風と海風の違いを今さらながら再確認すると共に、短

レース出場艇一覧表 (レース成績表)

NORC東海支部レース委員会

レース帆走委員長 八木 正生

マイル数30M

タイムリミット '86/4/6 18:00

レース名 NORC野島レース スタート 86/4/6 08:00 コース S→生田ブイ→野島→豊橋No.1→F

参加艇 17艇 内IOR I~IV 10艇。V 7艇。S 0艇。

クラス	艇名	セーラー No.	艇長	乗員数 全員数	T C F	野島 回航時間	所要時間	修正時間	順位 総合	位 クラス	フリート	備考
II	VIND 7	2558	小林義彦	11	0.8292	11:15	8:03:00	6:40:30	16	9	24.030	
	MARK	2634	西村義行	8	0.8114	11:00	8:04:37	6:33:13	15	8	23.593	
	SELENE	2962	樋口順二	5	0.8095		D N S	D N S				
	CARRERA	2210	渡辺行彦	11	0.8230	11:48	7:50:00	6:26:49	14	7	23.209	
III	朝 鳥	2477	加藤好憲	6	0.7835	11:50	7:59:13	6:15:27	12	6	22.527	
	長 良	3022	矢野敏邦	7	0.7396	11:56	8:06:29	5:59:48	7	②	21.588	
IV	NOAH IV	3405	近藤伸次	5	0.7396	11:45	7:58:13	5:53:41	③	①	21.221	
	桃 太 郎	3121	都築勝利	6	0.7560	11:47	8:09:20	6:09:56	10	5	22.196	
	オセアニッド	2765	吉田節美	7	0.7396	11:30	8:14:20	6:05:13	8	③	21.913	
	フローレス	3525	森 幸美	9	0.7530	11:24	8:09:24	6:08:31	9	4	22.111	
	ホライズン V	2500	柳瀬愛彦	5	0.7343	11:40	8:09:41	5:59:34	6	5	21.574	
V	CHEERFUL-V	3398	小川伸也	6	0.7343	11:19	7:48:04	5:43:42	①	①	20.622	
	MEG V	3037	竹内保夫	5	0.7312	11:52	8:11:29	5:59:22	5	4	21.562	
	RAFALE	3439	森 章	6	0.7364	12:08	8:27:19	6:13:35	11	6	22.415	
	SUPER LUCY	3255	長谷川富延	6	0.7354	11:45	8:22:14	5:54:38	4	③	21.278	
	うらなみ VI	2431	近藤勝美	7	0.7106	11:55	8:53:47	6:19:18	13	7	22.758	
	NARUMI-6	3225	竹内 靖	7	0.7343	11:40	7:56:02	5:49:33	②	②	20.973	

距離レースでも無線交信により、レース本部の労力低減を計る方法を考えてほしいものと思う。

今回スタート時に、〈セレーネ〉のクルーがブームパンチにより頭部負傷という事故があり、DNSとなった事は大変お気の毒であった。“軽風時にも十分気をつけて操船する”という基本を守る事が必要と感じた次第である。

今回はレース後のアフターパーティも企画し、とん汁、おでんを用意し、ファーストフィニッシュ30分後から開催した。各艇レース談議に花が咲き〈チャフル〉の野島からのコースどりに各艇脱帽、くやしがあったものだった。

最後になりましたが、市川氏、中村氏及び三河湾フリーの皆様の全面的な御協力を心から感謝します。



IVクラス2位の〈長良〉



NORC玄海支部 片倉静江

〈玄海ウィークレース〉

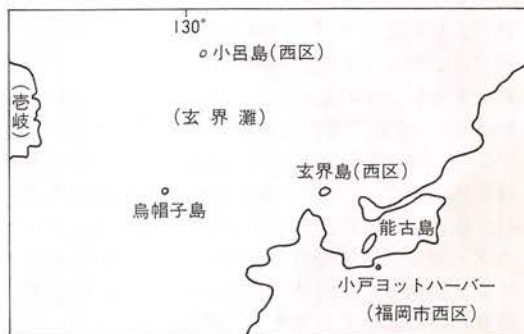
今年から、アリランレースのない年のゴールデンウィークを有効に使う目的で、玄海ウィーク・シリーズレースを行なう事にした——5レースにわけ、そのトータルをまとめたが、予想以上の人気で最終第5レースはどしゃ降りの中の夜間帆走に向かう各艇を見送りながら、これで玄海支部もやっと6年前の「外洋帆走協会」に戻ったなと嬉しかった。隣のバースの21フィートが26フィートになり、「外洋レースにも出ます」と、波浪注意報発令下の湾内を帆走しているのを見た時も嬉しかった。「玄界灘へ出よう！外洋へ出よう！我々は外洋帆走協会のメンバーなのだ」は、大原前支部長の言葉だった。

玄海ウィーク・シリーズレース内容は下記の通り。

- 4月27日(日)玄界島一周(半時計)約15マイル
北西4m～5m, 小雨, 濃霧。 (13艇)
- 4月29日(火)湾内オリンピックコース2レース
北西5m～6m, 快晴。 (14艇)

- 5月3日(土)能古島一周(半時計)約8マイル
北東2m～3m, 小雨後曇。 (17艇)
- 5月3日(土)17:10スタート
小呂島—鳥帽子島, 約60マイル (12艇)
北東3m～4m, 雨, 雨。
- 5月4日(日)タイムリミット前に全艇フィニッシュ。
——シリーズ・トータル成績表——

得点順位		総合順位
1	バンガード (V D O 36)	2
2	麻理絵 (V D O 41)	10
3	マルコ V (H A Y 35)	12
4	G. B. (ジャックポット I)	3
5	ピクニック (フレンドシップ 32)	11
6	リベルテ (K I H 34)	8
7	CITY BOY (Y A 30)	①
8	レディ K (K I H 30)	4
9	キャプテース (V D F 30)	5
10	Dr HIRO (E D 30)	6
11	フェニックス (F A R 920)	
12	ステラ (Y A 30)	7
13	リップスティック (ジョイラック 26)	9





NORC協会ニュース

第98回 緊急理事会議事録

1. 日時 昭和61年 5月14日(水)1710~2005

2. 場所 東京都港区虎ノ門1-15-16船舶振興ビル

3. 出席者 30名(うち理事27名)

理事(出席11名)石原慎太郎、大儀見薫、朝河清、今岡又彦、清田博、児玉萬平、塩路一郎、篠原要、山崎達光、渡辺修治、久保和男(委任状16名)秋田博正、清水栄太郎、石井正行、林賢之輔、宮坂敬三、林政幸、川端治夫、小林義彦、都築勝利、秋山福夫、三井祥功、松木哲、山田東吾、岩田行史、末松明、城間祥行
理事以外(3名)(帆走委副委員長)初鹿野幸生(ルール委副委員長)周東英卿(事務局長)歌田道教

4. 議題 (1)事業補助金について

(2)その他

5. 議事 1710大儀見副会長司会で開会、出席者及び委任状提出者が全理事の過半数で会議が成立することを確認のうえ、大儀見副会長議長となり議事に入った。

(1) 議題(1)について児玉理事から60年度補助事業監査時の状況ならびに監査結果60年度予算128万円の減額、61年度事業執行の停止、及び監査結果を踏まえた61年度事業の改善案の提出を指示されている旨の報告があり、大儀見議長から本理事会の最大のテーマは補助金決定通知書の交付を受けている61年度補助事業について口頭ではあるが、事業執行の停止と改善案の提出をいわれていることについて NORCの対応はどうあるべきかということにある。この点の審議を願いたいとの発言があり審議に入った。

各理事の意見を検討中石原会長も出席慎重に審議した結果、本日の審議過程をふまえて、会長、副会長、専務理事等で検討、早急に対応を決定する事となり全員了承した。(石原会長用務のため退席)

(2) その他

① アメリカズ・カップは、本年秋から冬にかけてのチャレンジ・シリーズの後、来年1月から2月にかけて、初めてアメリカ以外の場所、オーストラリアのフリーマントル沖で行なわれることになっているが、チャレンジの条件は、年次のレガッタ(Annual Regatta)を海洋で行なっている公認されたヨットクラブ(Established yacht club)でなければならないとなっており、NORCがその条件を備えており、次回(1991年)にチャレンジするため、アメリカズ・カップ特別委員会を発足させ、体制を整備することが決った。同特別委員会は、会長、副会長、専務理事に若干名を加えて、早急に発足することに

なった。

なお、この事業は、日本のヨット界は勿論、総力を結集して行なわれなければならないことは当然であり、しかも1回のチャレンジで終るものでなく、少なくとも3回、10年の展望を持って取り組まなければならないことが併せて確認された。

② 鳥羽レースは先に2コースに分けて実施することが決定されていたが、IOR・JORは神津島廻りのコースに適用されるものとし、従来どおりのコースには、新たにクルーザーレーティングが適用されることとなったが、このコースにはクルーザーレーティングの普及を図るために会友艇の参加も認めることが決定された。

③ 会友艇に対して、エンサイン旗を有償頒布することが決った。会員艇によるエンサイン旗使用を積極的に推進するとともにクラブ旗(バジー)と、国籍旗に準ずるものとしてのエンサイン旗の使い分けを明確にすることがその意図である。

④ 浦安ディズニーランド南端の海面使用权をNORCで獲得し、会員各位にメリットをもたらすべく現在申請準備を進めていることが確認された。

また「NORC公認ナショナル・ジャッジ制度に関する規程」については、少し時間をおいて検討することとなり、継続審議となった。

他に質疑、意見等は無く以上をもって全議案を議了し、2005第98回緊急理事会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し記名捺印する。

昭和61年 5月14日

議長 大儀見 薫 (印)

署名人 児玉 萬平 (印)

署名人 清田 博 (印)

日本船舶振興会補助事業

クルーザーレーティング委員会からのお知らせ

関東支部委員長 武田 勝彦

数年来関東支部の懸案になっておりました「多くの人の参加できるレース」、その重要資格であったレーティングルールがより簡単に多くの人々に計測していただけるシステムになりました。これは昨年9月号に渡辺修治氏が提案された簡易レーティングをその後の理事会で決議し、今年より新しくクルーザーレーティング委員会を組織するはこびとなりました。関東支部の各フリートにおける委員の方々は次の通りです。

委員長 武田勝彦(シボニア) ☎03-562-2264

委員 服部 一良(シ) ☎03-212-0321(内4751)

〃 白崎謙太郎(小網代)	☎03-300-8267
〃 藤田 弘治(油 壺)	☎03-256-8107
〃 小沢 美弘(江 島)	☎045-752-1558
〃 石井 竹彦(諸 磯)	☎044-966-3742
〃 柿島 亮一(横 浜)	☎045-712-3013
〃 三宅 直晴(葉 山)	☎03-416-7326
〃 (佐 島)	

せ下さい。

(記 石井竹彦)
歌田道教)

又、5月号オフショアで御存知のごとく今年の鳥羽パールレースにクルーザーレーティング艇の出場が認められております。これに対応すべく技術委員長渡辺修治氏が4月19日と20日東海支部へ、5月18日関東支部(シーボニア)、そして5月24日と25日に内海支部(西宮マリーナ)で講習会を行なっていただきました。関東におけるシーボニアでの講習会出席者は次の通りです。

横浜F:平野雅一, 石黒正賞, 佐々木功

諸磯F:鈴木利夫, 石井竹彦

葉山F:井上一典

江ノ島F:熊谷達也, 仁部智彦, 小野智之, 伊藤静美

小網代F:船原明, 長淵国夫

シーボニアF:大津勉, 朝河清(会場等協力者)

油壺F:別部尚司(艇協力者)

次にクルーザーレーティングについて関東支部として決定したことを記します。

- 1)すでにIOR, JOR を持っておられる艇でクルーザーレーティングを取りたい時にはNORC コンピューターにより計算させることができる。(現在進行中)
 - 2)IOR, JOR 等ですすでに計測データのあるクラスポートについては一部計測をすることによってレーティングを算出することができる。
 - 3)まったくデータのないケッチ, ヨール等については全計測を行なうものとする。
 - 4)上記1), 2), 3)で, クルーザーレーティング委員会が有効と認めたデータ, レーティングを持っている艇は計測を必要としない場合がある。
 - 5)計測料は2,000円とし支部又はフリートに支払う。実施手当は最高額を1,000円としフリートに支払い計測員に支払う。
 - 6)各フリートの委員がサインをすることにより計測証書は有効となる。計測証書は本書以外に2部コピーを取り, 本書を計測艇に, コピーの1部をフリートに他の1部をNORCに保管する。
 - 7)器材(馬, 計測パー)は材料をフリートに支給する。
 - 8)計測証書については今後よりよい物たとえばプレート等を製作していく予定であるが, これらはオプションとする。
- 以上のようなことが決定いたしました。何かご質問がありましたら上記計測委員, 又はNORCへお問合

帆走委員会からのお知らせ

1. 第27回鳥羽パールレース (海の記念日旬間協賛)

A) コース: 鳥羽→神津島(反時計)→小網代 180マイル

参加資格: IOR 又は JOR I ~ VI 安全規則 ORC-3 NORC-B

B) 新しいクルーザーレーティングクラスが出来ました

コース: 鳥羽→小網代 150マイル(従来の鳥羽レースと同じコース)

参加資格:

1. NORC 会員艇及び会友艇
2. 「沿海区域」の船舶検査証を取得
3. 乗員の半数以上がNORC 会員であること
4. NORC 特別規定B
5. ORC 安全規則-3 を取得していることが望ましいが今年に限り人数分のハーネス, ライフラフト及びパラシュートフレア4本以上でも可とする
6. 参加料は乗員料も含み1艇1万円とする。

スタート: A, B 共に7月25日(金)11:00

タイムリミット: A, B 共に7月27日(日)18:00

申込締切: 6月27日(金)17:30 NORC 本部

連絡会議: 7月11日(金)19:00 NORC 本部

尚フィニッシュ予定7月27日には安全フェスティバル, ウェルカムパーティーも企画されています。

2. プレ鳥羽レースのお知らせ

7月24日(木)鳥羽市主催によるプレ鳥羽レースを計画しております。是非ご参加下さる様お願い致します。

スタート: 7月24日(木) 10:00予定

レースエリア: 菅島水道 約10マイル

参加料: 無料賞品を多数用意しております。

詳細についてはパールレース連絡会議において説明致します。

3. 第13回江の島一清水レース (95マイル) について

1. スタート 7月12日(土) 12:00 江の島

2. 申込〆切 6月27日(金) 17:00 NORC 本部

3. 参加資格 IOR, JOR クラス I ~ VI

4. 安全備品 ORC-3, NORC-B

5. 出艇申告及び 7月11日(金)18:30~19:30

艇長会議 NORC 本部

6. 係留艇について

- 1) 清水港係留は7/13(日)より7/20(日)まで可, 1艇3,000円の泊地整理料をお願いします。係留艇は前後にアンカーが必要です。各艇用意して下さい。

- 2) 江の島にはスタート前日から係留出来ます。
 3) 清水港、江の島共係留についての問い合わせは
 NORC 本部まで

江の島～清水レースも13回目をむかえることになりました。駿河湾支部ではつめたいビールなどを用意し、簡単なパーティーを考えております。皆様の参加をお待ちしております。
 (記：芳賀)

— お 願 い —

この度、会員名簿の作成につきましてご協力ありがとうございました。なるべく早急に作成したいと思っておりますが、住所不明の方々が多数いらっしゃいましたので、下記の方々と同じ艇の方、又はお知り合いの方がいらっしゃいましたら、至急 NORC に連絡を下さるよう伝言して下さい。よろしくお願いします。

日本外洋帆走協会

☎03(504)1911

札幌市	井上 明	名古屋市	品川 誠
〃	梅原 洋介	西春日部	長谷川正也
豊田市	高木 豊	岩倉市	柿本 秀治
長西市	石川 湊一	大阪市	木下 俊文
港区	今野 彰	〃	山品 一清
大田区	那須 英蓉	伊丹市	飯田 義輝
目黒区	古家 恒昌	明石市	柴田 稔
世田谷区	石川 達雄	広島市	鈴木 欽也
新宿区	井坂 一	〃	丸山 茂樹
横須賀市	村田 和弥	福岡市	坂口 定雄
習志野市	藤田 靖志	〃	濱口 和孝
三島市	高草木敏夫	〃	西村 宏一
湖西市	小山 聡	久留米市	浮田 芳典
名古屋市	高橋 宏幸		

1986年度

IORセールメジャラー名簿追加

SM-004	戸谷寿男	フッド・セイルメーカーズ
SM-008	前田利一	ドイル・セイルメーカーズ
SM-010	河本義夫	ノット
SM-012	庄崎義雄	キング・セイル
SM-013	石川信和	ハリケーン

新登録艇の紹介

セール番号、艇名、帆装、フリート、全長×
 水線長×巾×吃水、オーナー名、その他の順
 ☆印は会友艇

1255 メイストーム ファースト 油壺 9.6×8.2×
 3.25×1.75 松田悠八／艇名の由来：帆走の師であつた落合公平氏が、激しいメイストームに遭遇して亡くなられたところから。／抱負：ファミリーセーリング＋若干のクラブレース＋スターウォッチング。／クルー：和田直巳(仕事は海洋開発。艇では力仕事全般)和田あづさ(Tシャツ作り)まさみ(妻・司厨)悠生・元貴・瑛奈(子・クルー見習)。／NORCへの要望：ここに書かれた要望が実現に向かったことはあるだろうか。書く時点での夢がもっともホットで身近なものであるはずなのだから、NORCはぜひ要望の数々を無視しないでほしい。そこで要望ですが、どんなに重いクルージングボートも“せり合う”楽しみを存分に味わえるようなレースをプロモートして下さい！

3550 SCHNAUZER〈シュナウザー〉 タカイー32 関西ヨットクラブ 8.99×7.50×3.29×1.80ヨシダタカオ／艇名の由来：我家の愛犬の犬種より。シュナウザーはドイツ産テリアの改造種にて中型犬なり。／抱負：この艇が建造5艇めとなりこれからもレース及びクルージングにとはりきっています。／クルー：九埜正明、大久保秀之等シュナウザー1世よりのクルーがそろっています。／NORCへの要望：別になし。

訂正箇所のお知らせ

5月号12ページ鳥羽パールレース文中のⅣコース イ.神津島回り IORレーティング艇とありますが、これを IOR 及び JOR と JOR を追加訂正いたします。

OFFSHORE 第135号 昭和61年6月15日発行
 毎月1回15日発行
 昭和52年7月21日 第三種郵便物認可
 1部定価300円(郵送料45円)

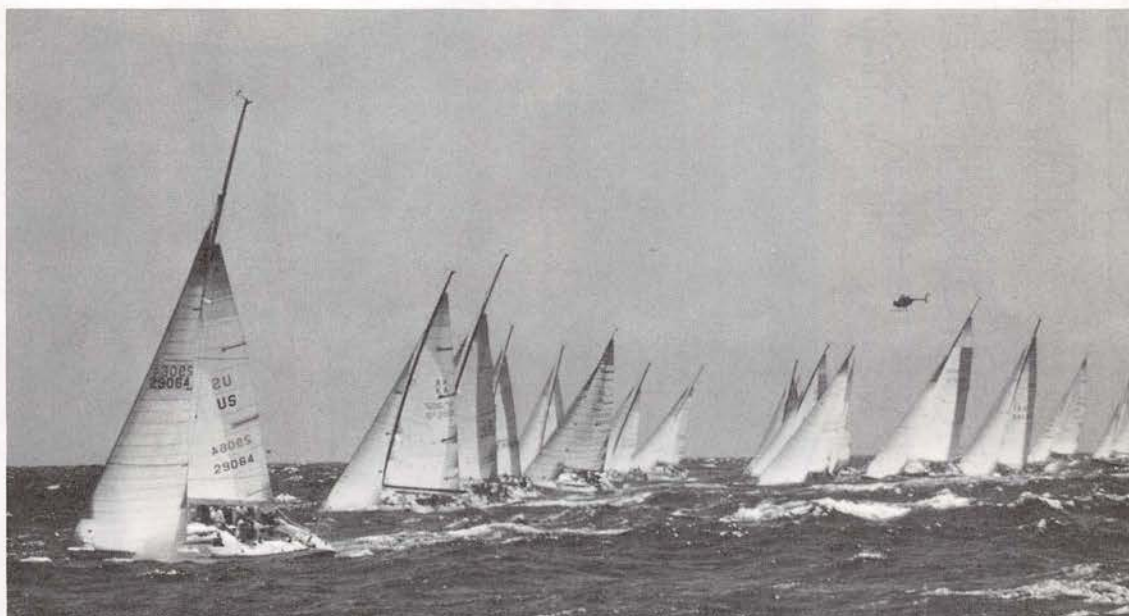
発行 社団法人 日本外洋帆走協会
 東京都港区虎ノ門1-15-16(船舶振興ビル4階)
 電話・東京03(504)1911～3 〒105
 郵便振替番号2-21787
 印刷 正進社印刷株式会社

'86 KENWOOD CUP

HAWAII INTERNATIONAL OCEAN RACING SERIES

ケンウッドカップ観戦ツアー ハワイ7日間

昭和61年8月1日(金)～8月7日(木) 214,000円より



第5回目を迎えたハワイ国際外洋ヨットシリーズは今年から装いも新たにケンウッドカップとして実施されることになりました。日本からも8艇2チームが参加を表明しています。8月2日～8月17日の期間に5レース行われるうち、27マイルのオリムピクトライアングルを2レースとモロカイレースのスタートをチャーターボートから見る本格的ヨットレース観戦ツアーをご案内します。

日程：昭和61年8月1日(金)～8月7日(木) 5泊7日

参加費用：レインボータワーコース 238,000円

コンドミニウムコース(2人部屋) 227,000円

〃 (3人部屋) 219,000円

〃 (4人部屋) 214,000円

募集人員：各コース共 25名

費用に含まれるもの：航空運賃、宿泊費、送迎バス、レース観戦費用、食事(日程表に明記されたもの)、ホノルル半日市内観光

お問い合わせ・お申込みは

(運輸大臣登録一般旅行業第407号)

(株)エスピーエントプライズ

〒104 東京都中央区八丁堀1-3-2

☎03-553-7813

担当者 杉山

月日	都市名	時間	内 容	食事
8月1日(金)	成田空港 発	21:00	ノースウェスト航空機にて成田空港を後にホノルルへ	機内
	ホノルル 着	9:00	日付変更線………ホノルル到着後、市内観光午後、自由行動	昼食
8月2日(土)	ホノルル滞在		第1回トライアングルレース観戦(約6時間)	昼食
8月3日(日)	ホノルル滞在		第2回トライアングルレース観戦(約6時間)	昼食
8月4日(月)	ホノルル滞在		夕刻より中距離オフショアレース(モロカイレース)のスタート観戦(約3時間)軽食付き	
8月5日(火)	ホノルル滞在		終日、自由行動 オプションツアーも用意しています。	
8月6日(水)	ホノルル 発	11:05	ノースウェスト航空機にて帰国の途へ	機内
8月7日(木)	成田空港 着	13:55	成田空港空港到着後、解散	

そこには大海を行く美しい愛艇があつた。
海に昂ぶる自分の勇姿があつた。
空撮だから実現できた、
自分史に残す感動のワンシーン。



★特別企画★
お申し込み
大好評!
受付中!

航空会社による空撮写真。 だから、美しい。だから低価格。

あなたのご愛艇と、ご自身の勇姿を超低空で撮影の上、引き伸ばした写真を美しい額に入れてお届けします。航空機25機を有し、空撮の経験が深い私たちだからこその、この企画です。

もちろん、仕上がりは格別。価格もはるかに格安です。またとないこの機会に是非ご参加ください。

基本料金 (航空撮影料) **¥120,000** (通常価格 300,000)

■B全サイズ・額付 (1,030×728mm) **¥60,000**

■B2サイズ・額付 (728×515mm) **¥35,000**

■B3サイズ・額付 (515×364mm) **¥20,000**

※ローンも承っております。

●期間中につき、キャビネ判を卓上額に入れ、プレゼントいたします。

ご注文に応じてポストカード等もお作りいたします。

詳細は当スカイ・マリン企画宛になんなりとお申し付けください。



——スカイ・マリン企画——

〒160 東京都新宿区新宿2-2-4 第10御苑宮庭マンション8D
株式会社クリエイティブ・フレンズ内

主催

富士航空株式会社
東日本航空株式会社

●お問い合わせ、お申し込みは/TEL.03(352)2883・7428